






令和3年度施策評価(第3次総合計画)

| 1 施策の概要 | |
|-----------|--|
| まちづくりの大綱 | 1 快適で安全・安心に暮らせるまちづくり |
| 基本施策 | 1 生活しやすい都市環境づくり【生活基盤】 |
| 関係課 | 総務課、企画政策課、環境生活課、市民税務課、観光商工課、建設課、こども教育課、生涯学習課、地域共生課、ガス上下水道局 |
| 主要施策 | 1 コンパクトなまちづくりの推進 2 スマートシティ妙高の推進 3 道路ネットワークの強化 4 雪に強いまちづくりの推進 5 安全で安定したガス上下水道の維持 |
| |      |
| R3予算額(千円) | 1,048,214 |
| R3決算額(千円) | 948,842 |

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

| 2 施策目標の達成状況 | | 指標名 | 単位 | 現況値 | 目標値 | 目標値の根拠 | 区分 | R2年度 | R3年度 | 目標達成率が70%未満の要因等 |
|-------------|-------------------------------|-------|------|------------------------------------|---------------|---|-------|--------|--------|---|
| 1 | 都市機能・居住誘導区域内の人口密度 | | 人/ha | 24.3 (H30) | 24.3 (R3) | 現況値以上を目標とする (現況値)9,734人 ÷400.5ha =24.3人/ha | 実績値 | 22.8 | 22.6 | |
| | | 指標の説明 | | 都市機能や居住の誘導を図る区域の人口密度 | → | | 目標達成率 | 93.8% | 93.0% | |
| 2 | 都市機能施設の誘導件数 | | 件 | — (H30) | 0 (R3) | ①統合園 ②図書館 ③子育て支援施設 ④商業施設 | 実績値 | 1 | 1 | ①R4統合園開園 ②図書館及び③子育て支援施設はR4実施設計予定 ④R2商業施設の誘導1件 |
| | | 指標の説明 | | 都市機能施設(統合園、図書館、子育て支援施設、商業施設等)の誘導件数 | ↗ | | 目標達成率 | — | — | |
| 3 | えちごトキめき鉄道市内4駅における1日あたりの平均乗車人員 | | 人 | 1,654 (H30) | 1,630 (R3) | 利用者は減少が見込まれるが、落ち込みを抑制(27-30:△4.3%→3%に抑制) | 実績値 | 1,200 | 1,212 | コロナ禍の影響により乗車人員が回復しなかったため |
| | | 指標の説明 | | 1日あたりの平均乗車人員(予測される減少を抑制) | ↘ | | 目標達成率 | 73.2% | 74.4% | |
| 4 | 市営バス・コミュニティバスの1日あたりの平均乗車人員 | | 人 | 267 (H30) | 264 (R3) | 利用者は減少が見込まれるが、落ち込みを抑制(26-30:△6%→3%に抑制) | 実績値 | 221 | 205 | コロナ禍の影響により乗車人員が減少したため |
| | | 指標の説明 | | 1日あたりの平均乗車人員(予測される減少を抑制) | ↘ | | 目標達成率 | 83.4% | 77.7% | |
| 5 | ICTが活用された住民サービス事業数 | | 事業 | — (H30) | 4 (R3) | 年間2事業の活用増を目指す | 実績値 | 2 | 4 | |
| | | 指標の説明 | | 市が進める住民サービスでICTが活用された事業数 | ↗ | | 目標達成率 | 100.0% | 100.0% | |
| 6 | ICTの導入による業務削減時間数 | | 時間 | — (H30) | 1,200 (R3) | 2,000時間以上の削減を目指す | 実績値 | 387 | 434 | 当初、RPA(注1)の活用を見込んでいた業務の中心は、現行の処理時間が大きいものに活用する予定であったが、プログラム作りが難しく、まずは確実な成果を得られる業務を対象にしたため。 |
| | | 指標の説明 | | 計画期間内に市役所でICTの導入により削減された業務時間数 | ↗ | | 目標達成率 | 38.7% | 36.2% | |
| 7 | 市道整備率 | | % | 57 (H30) | 57.3 (R3) | (整備済延長: 401,800m+整備計画延長800m)÷市道実延長:705,300m | 実績値 | 57.2 | 57.3 | |
| | | 指標の説明 | | 市道延長に対し整備した市道の割合 | ↗ | | 目標達成率 | 100.0% | 100.0% | |
| 8 | 橋梁修繕率 | | % | 19.4 (H30) | 23.8 (R3) | 修繕計画橋梁数: 44橋÷修繕必要橋梁:160橋 | 実績値 | 21.9 | 21.9 | |
| | | 指標の説明 | | 修繕必要橋梁数に対し修繕した橋梁の割合 | ↗ | | 目標達成率 | 97.3% | 92.0% | |

注1)RPAとは:ロボティックプロセスオートメーション:人間がコンピュータ上で行っている定型作業をロボットで自動化すること

| 3 施策を構成する主な事業 | | | | |
|---------------|----------------------|---------------|---------------|--|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 |
| 1 | (98972) | 1 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●民間事業者が、令和3年度より新たに支援対象とした優良宅地造成支援補助金を活用し、宅地造成区域と公道を結ぶ接続道路を整備したことから、住宅団地とのアクセス性の向上に繋がった。 ※R3造成区画38区画のうち16区画は成約済み。 ●官民連携によるまちづくりを促進するため、引き続き、居住誘導を図る。 |
| | 優良宅地造成支援事業 | | | R3予算額(千円) 6,000 R3決算額(千円) 5,000 |
| 2 | (100302) | 2 | - | <ul style="list-style-type: none"> ●園整備構想に基づく、第三保・斐太南保・矢代保の統合園整備が完了し、幼児教育や保育環境の充実を図った。 |
| | 統合園園舎新設事業(第三・斐太南・矢代) | | | R3予算額(千円) 627,932 R3決算額(千円) 627,609 |
| 3 | (92102) | 4 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●市内の公共交通を維持し、市民の移動手段の確保を図った。SDGs未来都市に選定されたことを契機に、AIを活用したシェア型デマンド交通システムの実証運行の導入に向けたアクションプランを作成した。 ●市内の公共交通を維持するため、人口減少時代に即した新たな公共交通サービスの導入を検討していく必要がある。 |
| | 生活交通確保対策事業 | | | R3予算額(千円) 129,001 R3決算額(千円) 123,591 |
| 4 | (103616) | 5, 6 | 拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ●情報化アドバイザーと連携し、10月にLINEを活用した「プッシュ型情報配信システム」、1月には「スマート窓口システム」を導入し、スマートシティ推進に向けたリーディングプロジェクトを達成することができた。また、ヘルプデスクと連携し、RPA導入に取り組み、年間434時間の業務時間を削減した。 ●令和3年度に策定した「先進技術社会実装事業計画」に基づく「ドローン活用」については、実証、実験等を行うことで導入までの道筋を示していく。 |
| | スマート自治体推進事業 | | | R3予算額(千円) 29,009 R3決算額(千円) 28,135 |
| 5 | (130370) | 7 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●市道改良工事7路線について、早期発注・早期完了に努め、年度内に全て工事を完了することができた。 ●国の交付金など財源確保を図りながら、計画的に道路整備を進める。 |
| | 道路新設改良事業 | | | R3予算額(千円) 82,600 R3決算額(千円) 75,799 |
| 6 | (130480) | 8 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●市道橋37橋の法令定期点検を実施し、健全度の確認を進めることができた。また、法令定期点検により修繕が必要な市道橋2橋の実施設計を行い、計画的な修繕計画を図ることができた。 ●国の交付金など財源確保を図りながら、計画的に維持修繕を進める。 |
| | 橋梁長寿命化事業 | | | R3予算額(千円) 40,651 R3決算額(千円) 32,277 |
| 7 | (160130) | 2 | 改善 | <ul style="list-style-type: none"> ●図書館、生涯学習、子育て支援、市民交流の機能が融合し、街なかに賑わいを生み出す拠点施設を目指して、市民等の意見を踏まえて基本設計に反映することができた。 ●コロナ禍等の影響により、建設資材の物価上昇や調達が困難な状況が続いており、事業費の増加が見込まれている。また、新たな生活様式への対応など、刻々と変化する社会情勢に柔軟に対応していく必要がある。 |
| | 新図書館等複合施設整備事業 | | | R3予算額(千円) 133,021 R3決算額(千円) 56,431 |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|--|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | <ul style="list-style-type: none"> ●新たな居住誘導に係る補助制度を活用した民間事業者による宅地造成区域と公道を結ぶ接続道路の整備により、住宅団地とのアクセス性の向上を図った。 ●AIを活用したシェア型デマンド交通システムの導入に向けたアクションプランを作成し、運行の需要に基づいた効率的な運行を行うこととした。 ●情報化アドバイザーとの連携により「スマート窓口システム」等を導入し、住民サービスの向上を図った。また、ヘルプデスクとRPA導入業務の拡大を図り、年間434時間の業務時間を削減した。 |

5 今後の方向性

| 区分 | | 選択区分 | 今後の方向性 |
|---------|--|------|--|
| 庁内評価委員会 | I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | III | <ul style="list-style-type: none"> ●官民連携によるまちづくりを進めるため、引き続き、住宅造成事業を支援し、居住や都市機能の適正な立地を図っていくこと。 ●新図書館等複合施設がまちづくりや地域の活性化に繋がる施設であることも踏まえるとともに、今般の資材価格等の高騰による状況も見極める中で工事着手の時期を明確にすること。 ●AIによるシェア型デマンド交通システムの実証運行の導入効果を分析し、持続可能な公共交通の再編に向けた検討を進めていくこと。 ●誰もが便利で快適に暮らせる社会の実現に向けて、行政事務の効率化をはじめ、あらゆる分野でDXを推進すること。また、マイナンバーカードを活用した市独自の取組を検討すること。 |
| 審議会 | I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | III | <ul style="list-style-type: none"> ●官民連携によるまちづくりを進めるため、引き続き、住宅造成事業を支援し、居住や都市機能の適正な立地を図っていくこと。 ●新図書館等複合施設がまちづくりや地域の活性化に繋がる施設であることも踏まえるとともに、今般の資材価格等の高騰による状況も見極める中で工事着手の時期を明確にすること。 ●AIによるシェア型デマンド交通システムの実証運行の導入効果を分析し、持続可能な公共交通の再編に向けた検討を進めていくこと。 ●誰もが便利で快適に暮らせる社会の実現に向けて、行政事務の効率化をはじめ、あらゆる分野でDXを推進すること。また、マイナンバーカードを活用した市独自の取組を検討すること。 |

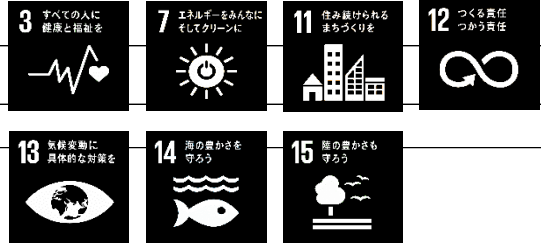
| 3 施策を構成する主な事業 | | | | |
|---------------|------------------|---------------|---------------|---|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 |
| 1 | (21070) | 1~3 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●自主防災組織、防災士、施設管理者及び市職員が一堂に会しての避難所運営訓練の他、実際の避難所を会場とした訓練を市内3か所で実施し、円滑な避難所運営となるよう備えることができた。 ●避難所を会場とした運営訓練の実践例を積み上げるとともに、地域の防災リーダーからも参画いただく中で、より地域の実情に即した訓練としていく必要がある。 |
| | コミュニティ防災組織育成推進事業 | | | R3予算額(千円) 6,406 R3決算額(千円) 5,279 |
| 2 | (21150) | 4 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域防災の中核を担う消防団員不足を解消するため、消防団を再編し、安定的に活動できる体制の構築を図った。また、消火栓、消防車両、小型動力ポンプなどの資機材整備については、計画どおりに完了したことから、消化・防火体制の強化を図ることができた。 ●消防団再編に伴い新たな資機材整備計画を作成する必要がある。 |
| | 消防施設・資機材整備維持管理事業 | | | R3予算額(千円) 51,383 R3決算額(千円) 44,258 |
| 3 | (50406) | 5 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●空き家情報登録制度における成約件数は、R2の39件からR3は43件に増加するとともに、空き家見学ツアーを通じて移住に繋がるなど空き家の有効活用が図られた。 ●首都圏などの移住検討者等に対する情報発信を強化し、空き家の成約に繋げることで、さらなる空き家の有効活用を促進する必要がある。 |
| | 妙高ふるさと暮らし応援事業 | | | R3予算額(千円) 10,297 R3決算額(千円) 8,229 |
| 4 | (90440) | 6, 7 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●国交付金を活用し、くくりわなやわなセンサーなどの技術により、効果的な有害鳥獣捕獲に繋がったことから、前年度に比べ農業被害(額・面積など)が減少した。 ●地域と市(実施隊・専門員)が更なる協力・連携を図るため、地区からの情報提供に基づき、迅速な捕獲活動を実施する必要がある。また、国、県の関係機関と情報共有を図りながら、捕獲技術研修会等へも積極的に参加する中で、捕獲技術の向上と捕獲数の増加を目指す。 |
| | 鳥獣対策事業 | | | R3予算額(千円) 11,933 R3決算額(千円) 10,021 |
| 5 | (90802) | 5 | - | (経常経費のため事後評価対象外) |
| | 空き家等適正管理事業 | | | R3予算額(千円) 657 R3決算額(千円) 585 |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | <ul style="list-style-type: none"> ●自主防災組織、防災士、施設管理者及び市職員による避難所運営訓練の他、実際の避難所を会場とした訓練を市内3か所で実施し、円滑な避難所運営となるよう備えることができた。 ●空き家情報登録制度における成約件数の増加により、特定空き家増加の抑制が図られた。 ●くくりわなやわなセンサーなどの効果的な技術の活用、住民・関係団体と連携した活動や防災行政無線による市民への注意喚起と情報提供の実施により有害鳥獣捕獲に繋がったことから、前年度に比べ農業被害(額・面積など)が減少した。 |

| 5 今後の方向性 | | |
|---|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 今後の方向性 |
| 庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | III | <ul style="list-style-type: none"> ●激甚化する自然災害への対策を万全にしていくとともに、コロナ禍における新たな生活様式を取り入れた防災対策を市民・地域と一体となって取り組むこと。 ●鳥獣対策については、わなセンサーやさるのテレメトリーなどのデジタル技術を活用した捕獲強化と農作物被害額の減少を図ること。 ●特定空き家の増加を抑制し、適正管理に繋がる方策を検討すること。 |
| 審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | III | <ul style="list-style-type: none"> ●激甚化する自然災害への対策を万全にしていくとともに、コロナ禍における新たな生活様式を取り入れた防災対策を市民・地域と一体となって取り組むこと。 ●鳥獣対策については、わなセンサーやさるのテレメトリーなどのデジタル技術を活用した捕獲強化と農作物被害額の減少を図ること。 ●特定空き家の増加を抑制し、適正管理に繋がる方策を検討すること。 |

令和3年度施策評価(第3次総合計画)

| 1 施策の概要 | |
|----------|---|
| まちづくりの大綱 | 2 美しい自然と共に生きるまちづくり |
| 基本施策 | 1 豊かな生活環境づくり【環境保全】 |
| 関係課 | 環境生活課 |
| 主要施策 | 1 自然環境の保全と活用 2 地球温暖化対策の推進 3 資源循環のまちづくりの推進 |



| | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|
| R3予算額(千円) | 221,483 | R3決算額(千円) | 212,366 |
|-----------|---------|-----------|---------|

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

| 2 施策目標の達成状況 | | 指標名 | 単位 | 現況値 | 目標値 | 目標値の根拠 | 区分 | R2年度 | R3年度 | 目標達成率が70%未満の要因等 |
|-------------|-----------------------|---|--------------|-------------|---------------------------------------|--------|--------|--------|---|-----------------|
| 1 | ライチョウの確認数 | 羽 | 12 (H30) | 16 (R3) | 過去最大の確認数に増加させることを目標とする | 実績値 | 22 | 18 | | |
| | 指標の説明 | 頸城山麓に生息するライチョウの確認数 | | ↗ | | 目標達成率 | 157.1% | 112.5% | | |
| 2 | 国立公園妙高利用者数 | 千人 | 1,660 (H30) | 1,692 (R3) | 現況値から5%増加を目標とする | 実績値 | 1,163 | 1,022 | コロナ禍の影響により、利用者が減少したものの。 | |
| | 指標の説明 | 自然公園等利用者調べによる妙高市域の利用者数 | | ↗ | | 目標達成率 | 69.4% | 60.4% | | |
| 3 | 環境サポーターズ登録者数 | 人 | 67 (H30) | 107 (R3) | 20人/年の増加を目標とする | 実績値 | 293 | 310 | | |
| | 指標の説明 | 環境会議で募集している環境ボランティア登録者数 | | ↗ | | 目標達成率 | 336.8% | 289.7% | | |
| 4 | 入域料協力金額 | 千円 | 1460 (H30) | 4350 (R3) | 毎年約1%増を目標とする | 実績値 | 3984 | 4223 | | |
| | 指標の説明 | 入域料に協力いただいた金額 | | ↗ | | 目標達成率 | 92.7% | 97.1% | | |
| 5 | 妙高市温室効果ガス排出量 | 千t | 313.0 (H30) | 298.0 (R3) | 第2次妙高市地球温暖化対策地域推進計画により、約6千t/年削減を目標とする | 実績値 | 299 | 265 | | |
| | 指標の説明 | 妙高市の温室効果ガスの約98%を占める二酸化炭素の量(当該年度に把握できる数値)※3年前年度の実績 | | ↘ | | 目標達成率 | 101.7% | 112.5% | | |
| 6 | 公共施設における再生可能エネルギー導入件数 | 施設 | 8 (H30) | 10 (R3) | 4件増を目標とする | 実績値 | 8 | 8 | | |
| | 指標の説明 | 市内公共施設における導入件数 | | ↗ | | 目標達成率 | 88.9% | 80.0% | | |
| 7 | ごみ排出総量 | t/年 | 14,761 (H30) | 13,504 (R3) | (家庭系排出予測値×人口予測値×年間日数)+(事業系排出予測値×年間日数) | 実績値 | 14,021 | 14,323 | コロナ禍の影響により、事業系のごみが大幅に減少したが、家庭ごみは集ごみ等によって増加したため、目標達成に至らなかったもの。 | |
| | 指標の説明 | 市内から発生する廃棄物の総量 | | ↘ | | 目標達成率 | 96.6% | 94.3% | | |
| 8 | 家庭系可燃ごみ1人1日あたり排出量 | g | 467 (H30) | 426 (R3) | H26年度比40g減量を目標とする | 実績値 | 481 | 479 | コロナ禍の影響で自宅にいる時間が増えたことで、家庭の片付けごみが増加したため。 | |
| | 指標の説明 | 家庭から発生した燃えるごみの1人1日あたり排出量 | | ↘ | | 目標達成率 | 89.4% | 88.9% | | |
| 9 | 事業系可燃ごみ1日あたり排出量 | kg | 11,893 (H30) | 11,200 (R3) | H26年度比0.4t減量を目標とする | 実績値 | 10,243 | 10,361 | コロナ禍の影響による事業系のごみが大幅に減少したため | |
| | 指標の説明 | 事業所から発生した燃えるごみの1日あたり排出量 | | ↘ | | 目標達成率 | 109.3% | 108.1% | | |
| 10 | 資源化率 | % | 30.7 (H30) | 31.2 (R3) | R7年度32.0%を目標とする | 実績値 | 31 | 32.5 | | |
| | 指標の説明 | 一般廃棄物の総量の内資源化された量の割合 | | ↗ | | 目標達成率 | 100.0% | 104.2% | | |

| 3 施策を構成する主な事業 | | | | | | |
|---------------|----------------------------------|---------------|---------------|---|--|--|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | | | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 | | |
| 1 | (97574) | 1~4 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●環境サポーターズの登録者数、クラウドファンディングの寄附金額や入域料の収受額の確保、ライチョウ生育地保護事業や外来植物の駆除をはじめとする生物多様性の保全など計画どおり実施できた。 ●自然環境保全への関心や意識を高めるため、入域料の収受状況や取組を広く周知するとともに、寄付者に対して報告を行う必要がある。あわせて、環境サポーターズの活動の充実を図るための工夫が必要である。 | | |
| | 生命地域妙高環境会議事業 | | | | | |
| 2 | (97248) | 5 | 拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ●生命地域妙高ゼロカーボン推進宣言や同条例に基づき、「2050ゼロカーボン」を目指す市の姿勢を明確にするとともに、その実現に向けた「ゼロカーボン実行計画」の策定に着手することができた。また、市内全小学校を対象に森林学習など環境学習の場の提供を行い、自然環境保護に向けた意識啓発を図ることができた。 ●ゼロカーボン実行計画策定後の市民や事業所への周知・啓発方法について、より実践に繋がる工夫をする必要がある。また、環境学習について、小学校低学年から中学生まで幅広く活用できるよう提供メニューを見直す必要がある。 | | |
| | 2050ゼロカーボン推進事業 (旧:地球環境保全推進事業) | | | | | |
| 3 | (90510) | 7~10 | 拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ●生ごみ処理機「キエーロ」「段ボールコンポスト」の普及を図るためDVDを作成するとともに、マイボトル運動の推進に向けて公共施設に給水機を設置した。 ●ごみの減量化と資源循環に対する意識をより高め、強化していくため、ごみ減量リサイクル説明会を開催し、生ごみの減量化・資源化、分別の徹底を呼び掛けた。 ●一般廃棄物処理基本計画で掲げる目標の達成を目指し、家庭系の燃えるごみの減量を図るための取組を強化する必要がある。あわせてプラスチック使用量や廃棄量を減らす必要がある。 | | |
| | ごみ減量・リサイクル推進事業 | | | | | |
| 4 | (100537) | 1~10 | 拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ●昨年5月に「SDGs未来都市」並びに「自治体SDGsモデル事業」に選定され、補助金も活用する中で取り組みを加速することができ、特に「SDGs未来都市推進フォーラム」では、コロナ禍によるオンライン開催でありながら、市民を中心に全国から600名を超える方から参加いただき、多くの方に妙高のSDGsの取組と行動変容の必要性を発信することができた。 ●市民や地域、事業所のSDGsに対する意識啓発や行動変容に向けた取り組みを推進するとともに、市民参画による推進体制を構築し、活動の横展開を図る必要がある。 | | |
| | 総合計画・SDGs推進事業 | | | | | |
| 5 | (106074) | 1~4 | 拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ●国立公園妙高の保護と利用の拠点となる「妙高高原ビジターセンター」が完成した。利用者の利便性向上と拡充を図るべく、新たな遊歩道の導線を確定するとともに、早期完成を目指して整備費用を補正で予算化した。 ●国立公園妙高の魅力や自然資源の大切さを伝える施設として、適切な来訪者への対応やこれまで以上に情報発信を強化していく必要がある。 | | |
| | 妙高高原ビジターセンター管理 運営事業 | | | | | |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|--|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | <ul style="list-style-type: none"> ●入域料やクラウドファンディングによる資金及び環境サポーターズの登録者数については、年々増加していることから、自然環境に対する保全意識が高まっているものと評価できる。 ●生命地域妙高ゼロカーボン推進条例に基づき「ゼロカーボン実行計画」に着手することができた。 ●コロナ禍の影響により、事業系のごみは大幅に減少したが、家庭ごみは巣ごもり等によって増えたことによりごみ排出総量は増加した。一方、ごみ減量リサイクル説明会において、生ごみの減量化・資源化、分別の徹底を呼び掛けた結果、再資源化率は向上した。 ●SDGs未来都市の選定を受け、推進フォーラムを開催するなど、SDGsの取組推進と行動変容の必要性を発信した。 |

5 今後の方向性

| 区分 | | 選択区分 | 今後の方向性 |
|---------|--|------|---|
| 庁内評価委員会 | I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | I | <ul style="list-style-type: none"> ●自然保護活動を持続可能なものとするため、自主財源の確保を図りつつ、人材を確保・育成することができる仕組みを構築すること。 ●市民・地域・事業所における地球温暖化防止対策に対する意識改革と行動変容を図るため、「ゼロカーボン実行計画」に基づきながら施策の推進並びに推進体制を構築すること。 ●ごみ減量リサイクル説明会を通じて、引き続き、ごみ減量化・資源化の必要性を理解してもらい、地域住民等の実践に結び付けること。 ●脱炭素社会の実現に向けた官民連携の取組を加速し、再生可能エネルギーの導入や省エネ住宅の購入、改修支援を含めたZEH・ZEB等の取組を推進すること。 ●SDGsの全市的な取組の波及と実践に繋げていくため、市民参画による推進体制を構築し、活動の幅広い展開を図ること。 |
| 審議会 | I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | I | <ul style="list-style-type: none"> ●自然保護活動を持続可能なものとするため、自主財源の確保を図りつつ、人材を確保・育成することができる仕組みを構築すること。 ●市民・地域・事業所における地球温暖化防止対策に対する意識改革と行動変容を図るため、「ゼロカーボン実行計画」に基づきながら施策の推進並びに推進体制を構築すること。 ●ごみ減量リサイクル説明会等を通じて、引き続き、ごみ減量化・資源化の必要性を理解してもらい、市民や事業者の実践に結び付けること。 ●脱炭素社会の実現に向けた官民連携の取組を加速し、再生可能エネルギーの導入や省エネ住宅の購入、改修支援を含めたZEH・ZEB等の取組を推進すること。 ●SDGsの全市的な取組の波及と実践に繋げていくため、市民参画による推進体制を構築し、活動の幅広い展開を図ること。 |

| 3 施策を構成する主な事業 | | | | |
|---------------|-------------|---------------|---------------|--|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 |
| 1 | (100584) | 1~5 | 見直し | <ul style="list-style-type: none"> ●外部の専門人材の登用により、妙高ツーリズムマネジメントが主体となり、事業計画の策定、体験型観光の推進、特産品開発や各種情報発信を行い効果的なプロモーションを図った。また、コロナ禍の中で感染防止と経済活動の両立を目指す「妙高モデル」事業として観光客の減少を補うためのキャンペーンを実施し、観光需要の喚起や顧客の獲得が図られた。 ●妙高ツーリズムマネジメントにおいては、市の補助金に頼らない自立した経営を目指すため、独自の取組により自主財源の確保を図る必要がある。また、アフターコロナを見据え、テレワーク・ワーケーションを取り入れた観光誘客施策の強化を図る必要がある。 |
| | 観光地域づくり推進事業 | | | R3予算額(千円) |
| 2 | (180330) | 7,8 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●燕温泉駐車場の舗装工事を実施し、観光客の安全確保を図った。また、高谷池周辺の湯水対策調査による現状把握を行うとともに、今後の課題解決に向けた検討を行った。 ●高谷池周辺の環境負荷軽減に向けて、再生可能エネルギーの活用などを視野に水源や電源確保に取り組む必要がある。 |
| | 観光施設整備事業 | | | R3予算額(千円) |
| 3 | (100587) | 1,2,6 | 見直し | <ul style="list-style-type: none"> ●感染症対策の徹底による観光客受入環境の整備や旅行商品の造成、誘客キャンペーンを実施し、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた取組を行った。青山学院大学陸上競技部のユニホームに妙高市のロゴをつけて箱根駅伝に出場したことで、他の大学から合宿の問い合わせがあるなど一定のプロモーション効果が得られた。 ●コロナ禍における感染症対策を講じたイベント運営、アフターコロナを見据えたインバウンドの誘客促進、さらには国内における探究学習の受入環境整備により観光誘客の推進を図る。 |
| | 観光誘客推進事業 | | | R3予算額(千円) |
| 4 | | | | |
| | | | | R3予算額(千円) |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|--|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | D | <ul style="list-style-type: none"> ●外部専門人材の登用により、妙高ツーリズムマネジメントが主体となって特産品開発や各種情報発信を行い効果的なプロモーションを図ったが、コロナ禍の影響により、観光入込客数と観光売上額等は目標を大きく下回った。 ●感染症対策の徹底による観光客受入環境の整備や旅行商品の造成、誘客キャンペーンを実施し、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた取組を行った。青山学院大学陸上競技部がユニホームに妙高市のロゴをつけて箱根駅伝に出場したことで、他の大学から合宿の問い合わせがあるなど一定のプロモーション効果が得られた。 |

| 5 今後の方向性 | | |
|---|------|--|
| 区分 | 選択区分 | 今後の方向性 |
| 庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | II | <ul style="list-style-type: none"> ●妙高ツーリズムマネジメントが、多様な業種を巻き込み、マーケティングデータに基づき主体的な取組を進めることにより、市の補助金に頼らない自立した経営を目指すこと。 ●妙高の地域資源を活用し、地域が一体となった観光プロモーションを行うとともに、妙高高原ビジターセンターやテレワーク研修交流施設等の活用など、また訪れたいくなる新たな観光コンテンツ造りに取り組み、観光消費額の向上を図ること。 ●アフターコロナを見据えたインバウンドの段階的な回復に向けた取組を進めていくこと。 |
| 審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | II | <ul style="list-style-type: none"> ●妙高ツーリズムマネジメントが、多様な業種を巻き込み、マーケティングデータに基づき主体的な取組を進めることにより、市の補助金に頼らない自立した経営を目指すこと。 ●妙高の地域資源を活用し、地域が一体となった観光プロモーションを行うとともに、妙高高原ビジターセンターやテレワーク研修交流施設等の活用など、一年を通じてまた訪れたいくなる新たな観光コンテンツ造りに取り組み、観光消費額の向上を図ること。 ●アフターコロナを見据えたインバウンドの段階的な回復に向けた取組を進めていくこと。 |

令和3年度施策評価(第3次総合計画)

| 1 施策の概要 | |
|----------|---|
| まちづくりの大綱 | 3 にぎわいと交流を生みだすまちづくり |
| 基本施策 | 2 活力ある地域経済づくり【産業振興】 |
| 関係課 | 観光商工課、農林課、企画政策課 |
| 主要施策 | 1 商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出 2 安定して働きやすい雇用の創出 3 持続可能な農業の振興 |



| | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|
| R3予算額(千円) | 388,603 | R3決算額(千円) | 195,168 |
|-----------|---------|-----------|---------|

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。


| 2 施策目標の達成状況 | | | | | | | | | |
|-------------|-----------------------------------|-----|--|-----------------|--|-------|---------|---------|--------------------------|
| 指標名 | | 単位 | 現況値 | 目標値 | 目標値の根拠 | 区分 | R2年度 | R3年度 | 目標達成率が70%未満の要因等 |
| 1 | 市内事業所数 | 事業所 | 957 (H30) | 901 (R3) | 予測される減少の抑制を目標とする(△12%→△10%) | 実績値 | 969 | 967 | |
| | 指標の説明 | | 市内の事業所数(予想される減少を抑制) | ↓ | | 目標達成率 | 105.9% | 107.3% | |
| 2 | 企業の立地・業務拡張等数 | 件 | 42 (H30) | 52 (R3) | 年間5件の増を目標とする | 実績値 | 47 | 47 | |
| | 指標の説明 | | 企業振興奨励条例等に基づく固定資産税免除・賃借料補助金指定件数(平成27年度からの累計) | ↑ | | 目標達成率 | 100.0% | 90.4% | |
| 3 | 賑わいづくりのイベント・朝市入込数 | 人 | 169,459 (H30) | 173,200 (R3) | 毎年約1%(1,600人)の増を目標とする | 実績値 | 114,220 | 117,690 | コロナ禍の影響により、朝市のみ入込となったため。 |
| | 指標の説明 | | 商工会議所・各商工会等が主体となるイベントと朝市の入込数 | ↑ | | 目標達成率 | 66.6% | 68.0% | |
| 4 | 企業の雇用創出数 | 人 | 75 (H30) | 88 (R3) | 年間6人の増を目標とする | 実績値 | 147 | 147 | |
| | 指標の説明 | | 企業振興奨励条例等における新規雇用創出数(平成27年度からの累計) | ↑ | | 目標達成率 | 179.3% | 167.0% | |
| 5 | 地元就職率 | % | 73.9 (H30) | 80 (R3) | 80%以上を目標とする | 実績値 | 73.5 | 75.4 | |
| | 指標の説明 | | 就職した高校生のうち妙高市、上越市の事業所に就職した割合 | ↑ | | 目標達成率 | 91.9% | 94.3% | |
| 6 | 市内での新規起業数 | 千円 | 25 (H30) | 31 (R3) | 年間3件の増を目標とする | 実績値 | 31 | 37 | |
| | 指標の説明 | | 市の補助制度を活用し、新たに起業した事業所数(平成27年度からの累計) | ↑ | | 目標達成率 | 110.7% | 119.4% | |
| 7 | コーディネート組織を通じた市内企業と都市部のビジネスマッチング件数 | 件 | 0 (H30) | 10 (R3) | 計画期間内に20件を目標とする | 実績値 | 7 | 9 | |
| | 指標の説明 | | コーディネート組織を通じたビジネスマッチングの件数 | ↑ | | 目標達成率 | 233.3% | 90.0% | |
| 8 | 主食用米の作付面積 | ha | 1591 (H30) | 1571 (R3) | R2年以降は全国的な需要の減少を勘案して、面積増加の抑制(維持)を目標とする | 実績値 | 1652 | 1596 | |
| | 指標の説明 | | 水田フル活用ビジョンにおける主食用米の作付面積 | ↓ | | 目標達成率 | 95.1% | 98.4% | |
| 9 | 経営耕地面積が20ha以上の法人の割合 | ha | 52.9 (H30) | 54 (R3) | 法人の新設、統合等により20ha以上の法人数を9、全数を15と想定し目標値を設定し、経過値は規模拡大傾向を表すものとする | 実績値 | 62.5 | 62.5 | |
| | 指標の説明 | | 農地所有適格法人に占める経営耕地面積が20ha以上の法人の割合 | ↑ | | 目標達成率 | 117.9% | 115.7% | |

| 3 施策を構成する主な事業 | | | | | |
|---------------|--------------|---------------|---------------|---|---------|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 | |
| 1 | (94195) | 1,3 | 改善 | <ul style="list-style-type: none"> ●事業所の規模や業種、成長段階にあわせた「がんばる企業応援補助金」等の活用が図られ、販路開拓や海外需要の取り込みなど中小企業の新たな取組を支援した。コロナ禍の影響で落ち込む地域経済の活性化とデジタル化を推進するため、マイナンバーカードの取得を一体的に進める市内共通プレミアム付商品券事業を実施した。 ●新型コロナウイルス感染症による地域経済の影響が長期化する中、商工業者の経営基盤の強化や魅力向上支援のほか、地域内消費の促進・喚起に繋がる取組を引き続き推進する。 | |
| | 地域経済活性化支援事業 | | | R3予算額(千円) | 106,389 |
| 2 | (120935) | 2,4,6 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●企業振興奨励条例に基づく課税免除21件、中小企業向けの支援策として夢をかなえる企業応援補助金18件の利用があり、新規創業と空き店舗の有効活用等に繋がった。 ●企業振興奨励条例については、起業・創業時に加え、移転・拡張時の利用も含め、引き続き制度周知に努めていく。 | |
| | 企業立地促進事業 | | | R3予算額(千円) | 62,225 |
| 3 | (120240) | 5 | 改善 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域人材育成支援助成制度は実施できたが、利用実績は目標値にとどいていない。新井高校生を対象としたジョブウォッチングでは11名の参加があり、生徒から市内企業を知ってもらう機会となった。一方、一般市民を対象とするジョブウォッチングでは、参加者数を伸ばすことができず、また、参加する年齢層が決まっており、参加する職種も偏っていた。 ●資格取得支援は、申請件数が減少傾向にあり現在の周知の方法を見直す。一般向けの就労支援として実施してきたジョブウォッチングは、より多くの方に参加してもらうべく、取組事態を見直す必要がある。 | |
| | 就労支援事業 | | | R3予算額(千円) | 1,630 |
| 4 | (102545) | 7 | 拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍の影響により、ワーケーションは計画通りに事業展開を図ることができなかったが、コーディネート組織を通じた市内企業と都市部の複業人材とのビジネスマッチングについては、2件がマッチングするなど一定の成果に繋がった。また、テレワーク研修交流施設の開設に向け、建築工事に着手するとともに指定管理者を公募するなど開設に向けた準備を行った。 ●令和4年度にテレワーク研修交流施設がオープンすることから、「SDGs」・「脱炭素」の視点により、都市部企業やワーカーなどの新たな人の流れ創出を図る必要がある。 | |
| | 関係人口創出・拡大事業 | | | R3予算額(千円) | 197,124 |
| 5 | (110030) | 9 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●全国的に米の消費量が減少する中、妙高市農業再生協議会を主体として、需要に応じた米生産に向けた取組みを進めた結果、令和3年産の主食用米作付面積は、前年から56ha減少し1,596haとなった。 ●主食用米から非主食用米への転換に係る国の交付金単価が減少している中で、生産者が自らの経営判断によって作付計画を立てる際の判断材料となるよう、引き続き米の需給状況や交付金等の周知を行う必要がある。 | |
| | 水田農業経営安定対策事業 | | | R3予算額(千円) | 11,685 |
| 6 | (110050) | 10 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●農業次世代人材投資事業により、新規就農者へ資金面の支援を実施した。また、「実質化された人・農地プラン」に基づき、斐太地区を集約化の重点地区とし、担い手等の調整を行った結果、集落ごとに担い手を定めることにより集約化を進めていくという方向性を決定した。 ●高齢により担い手が減少傾向にあることから、新たな担い手の確保に努める必要がある。 | |
| | 担い手確保支援事業 | | | R3予算額(千円) | 5,103 |
| 7 | (91581) | - | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●加工用ブドウの栽培について、栽培を専門に行う地域のこし協力隊を採用し、2.5tの収量を確保することができた。また、六次産業化に係る産官学連携として、生産者、上越教育大学、市で商品パッケージの作成に向けて取り組んだ。 ●加工用ブドウの品質を向上と収量確保を図るため、継続的に栽培技術の向上を図る必要がある。 | |
| | 六次産業化推進事業 | | | R3予算額(千円) | 4,447 |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|--|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍の影響により低迷する地域経済の活性化を図るため、マイナンバーカード取得と一体的に進める市内共通プレミアム商品券事業を実施し、消費喚起とデジタル化を推進した。 ●夢をかなえる企業応援補助金の活用により平成27年度からの累計では、起業・創業数が37事業所となるなど、一定の成果が上がっている。 ●新井高校生を対象としたジョブウォッチングを実施しているものの地元就職率は現況値とほぼ横ばいの状況が続いており、よりよい雇用条件を求めた市外への流出に歯止めがかけられていない。 ●関係人口の創出に向けては、市内企業と複業人材とのビジネスマッチングが2件成立するなど一定の成果に繋がった。また、テレワーク研修交流施設については、建築工事に着手するとともに指定管理者を公募するなど開設に向けた準備を行った。 ●全国的に米の消費量が減少する中、妙高市農業再生協議会を主体として、需要に応じた米生産に向けた取組みを進めた結果、令和3年産の主食用米作付面積は、前年から56ha減少し1,596haとなった。 |

| 5 今後の方向性 | | |
|---|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 今後の方向性 |
| 市内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | I | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍における地域経済の活性化のため、継続的な支援策を検討していくこと。 ●夢をかなえる企業応援補助金の活用などにより、市内での起業・創業のさらなる増加と空き店舗の有効活用や街なかの賑わい創出を図ること。 ●地方分散型社会への転換を追い風として、「テレワーク研修交流施設」を拠点とした、新たなローカルビジネスの創出と地元企業とのビジネスマッチングによる魅力ある産業の育成と雇用の場を確保する取組を進めること。 ●生産者の減少や高齢化への対応として、スマート技術の推進、担い手の確保と育成に向けた取組を強化すること。また、加工用ブドウ栽培の作付拡大方策を検討すること。 ●アフターコロナを見据えて、新たな生活様式によるまちなかの賑わい創出に向けて取り組むこと。 |
| 審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | I | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍における地域経済の活性化のため、継続的な支援策を検討していくこと。 ●夢をかなえる企業応援補助金の活用などにより、市内での起業・創業のさらなる増加と空き店舗の有効活用や街なかの賑わい創出を図ること。 ●地方分散型社会への転換を追い風として、「テレワーク研修交流施設」を拠点とした、新たなローカルビジネスの創出と地元企業とのビジネスマッチングによる魅力ある産業の育成と雇用の場を確保する取組を進めること。 ●生産者の減少や高齢化への対応として、スマート技術の推進、担い手の確保と育成に向けた取組を強化すること。また、加工用ブドウ栽培の作付拡大方策を検討すること。 ●アフターコロナを見据えて、新たな生活様式によるまちなかの賑わい創出に向けて取り組むこと。 |

令和3年度施策評価(第3次総合計画)

| 1 施策の概要 | | | |
|---|---------------------------|--------------------|-------------------|
| まちづくりの大綱 | 4 | 全ての人が元気に活躍できるまちづくり | |
| 基本施策 | 1 | 市民主体の健康づくり【健康・医療】 | |
| 関係課 | 健康保険課 | | |
| 主要施策 | 1 健康づくりの推進 2 地域医療体制の確保 | | |
|  | | | |
| R3予算額(千円) | | 364,322 | R3決算額(千円) 333,831 |

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。



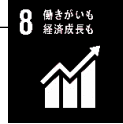

| 2 施策目標の達成状況 | | | | | | | | | |
|---------------------------------|----|---|------------------|------------------------------------|-------|------------------|------------------|--|--|
| 指標名 | 単位 | 現況値 | 目標値 | 目標値の根拠 | 区分 | R2年度 | R3年度 | 目標達成率が70%未満の要因等 | |
| 1 健康寿命と平均寿命の差 | 歳 | 男性1.8歳 女性3.7歳 | 男性1.8歳 女性3.7歳 | 現況値よりも差を減少させる | 実績値 | 男性1.7歳 女性3.7歳 | 男性1.7歳 女性3.4歳 | 【参考】 ○男性(A)79.3歳 (B)81.1歳 ○女性(A)84.1歳 (B)87.8歳 | |
| | | 指標の説明 市民の健康寿命(A)と平均寿命(B)の差 | → | | 目標達成率 | 100.0% | 100.0% | | |
| 2 生活習慣病予防のための運動習慣の定着率(65歳以上の男性) | % | 43.3 | 49 | 年平均3%増を目指す | 実績値 | 43.6 | 44.1 | | |
| | | 指標の説明 国保特定健診及び市民健診を受診した65歳以上の男性のうち、1日30分以上の運動を週2回以上実施し1年以上持続している人の割合 | ↗ | | 目標達成率 | 94.8% | 90.0% | | |
| 3 市内病院数 | 病院 | 2 | 2 | 現状を維持することを目標とする | 実績値 | 2 | 2 | | |
| | | 指標の説明 市内における病院数(けいなん総合病院、県立妙高病院) | → | | 目標達成率 | 100.0% | 100.0% | | |
| 4 市内病院の常勤医師数 | 人 | 15 | 15 | 過去5年間の増減数をもとに目標値を設定 | 実績値 | 12 | 12 | | |
| | | 指標の説明 安定した診療体制維持のためのけいなん総合病院及び県立妙高病院における常勤医師数(研修医除く) | → | | 目標達成率 | 80.0% | 80.0% | | |
| 5 市内病院の診療科目数 | 科目 | 13 | 13 | 現況値以上を目標とする | 実績値 | 13 | 14 | | |
| | | 指標の説明 けいなん総合病院・県立妙高病院で開設されている外来診療科目とリハビリテーション科の合計 | → | | 目標達成率 | 100.0% | 107.7% | | |
| 6 救急医療を担う病院の数(第二次救急医療体制) | 病院 | 7 | 7 | 医師の負担増大を防ぎ、安定して体制継続させるため現状維持を目標とする | 実績値 | 7 | 7 | | |
| | | 指標の説明 妙高市・上越市において救急医療を輪番制で担う病院の数 | → | | 目標達成率 | 100.0% | 100.0% | | |
| 7 肥満者の割合(20~69歳の男性) | % | 31 | 31 | 現況値よりも差を減少させる | 実績値 | 28.7 | 31.3 | | |
| | | 指標の説明 国保特定健診及び市民健診を受診した20~69歳の男性のうちBMI25以上の者の割合 | → | | 目標達成率 | 108.0% | 99.0% | | |
| 8 | | | | | 実績値 | | | | |
| | | 指標の説明 | | | 目標達成率 | - | - | | |
| 9 | | | | | 実績値 | | | | |
| | | 指標の説明 | | | 目標達成率 | - | - | | |
| 10 | | | | | 実績値 | | | | |
| | | 指標の説明 | | | 目標達成率 | - | - | | |

| 3 施策を構成する主な事業 | | | | |
|---------------|---------|---------------|---------------|--|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 |
| 1 | (91415) | 1,2 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍の影響により、健康づくりリーダーが地域で行う育成研修会などの健康づくり活動が実施できなかったが、ウォーキングに関する研修会の資料を送付するなど地域への情報発信を行った。また、食生活改善推進員の会では、全会員対象の中央研修は中止となったが、新会員対象の養成講座を開催し、役割や活動について理解を深めた。 ●アフターコロナを見据えたウォーキングなどの地域活動、健康づくり活動の実施方法を検討する必要がある。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 2 | (71850) | 1,2 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●感染予防対策を講じた上で各種健(検)診、健診結果説明会を実施することができたが、健診結果説明会等における重症化予防保健指導実施率は、コロナ禍の影響により、前年の95.5%を大きく下回り72.3%となった。また、新型コロナワクチン接種の実施に伴い、糖尿病性腎症重症化予防プログラムに基づく継続した支援は実施することができなかった。 ●コロナ禍においても各種健(検)診の受診率向上のため、受診しやすい環境づくりと個別受診勧奨等により健(検)診への関心を高めていくことが必要である。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 3 | (71770) | 3, 4, 5, 6 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●新潟大学との寄附講座の継続設置(R4~R6)が決定し、厚生連けいなん総合病院への医師確保に繋がった。また、診療所開設支援事業補助金を活用し、市内診療所(清華ファミリークリニック塚田医院)の開設(R4年1月)に結びつけることができた。さらに、医師養成修学資金のR4貸与者(1名)を決定し、将来の医師確保に繋げることができた。 ●市内医療機関の医師確保は、まだ十分とは言えないことから、地域医療体制確保のため、引き続き、医師確保対策を進める必要がある。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 4 | (71730) | — | — | (経常経費のため事後評価対象外) |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 5 | (71930) | — | — | (経常経費のため事後評価対象外) |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 6 | | — | — | |
| | | | | R3予算額(千円) |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | <ul style="list-style-type: none"> ●ウォーキングに関する研修会の資料を送付するなど地域への情報発信を行った結果、運動習慣の定着率の向上につながった。 ●受診控えが懸念された中、コロナ対策を講じて各種検診等を開催し、各検診の受診者数は前年比1割減に抑えることができた。 ●新潟大学との寄附講座の継続設置に伴い厚生連けいなん総合病院への医師確保に繋がるとともに、診療所開設支援事業補助金の活用による市内診療所の開設に結びつけることができた。また、医師養成修学資金のR4貸与者を決定し、将来の医師確保に繋げることができた。 |

| 5 今後の方向性 | | |
|---|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 今後の方向性 |
| 庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | III | <ul style="list-style-type: none"> ●地域における運動習慣の定着を図るため、引き続き関係機関と連携し、ウォーキングの普及拡大に取り組むとともに、地域資源である自然環境等を活用したクアールト健康ウォーキングによる市民の健康づくりや生活習慣病予防を推進すること。 ●健(検)診会場での感染防止対策に万全を期すとともに、さらに受診しやすい環境づくりに努め、受診率の向上につなげること。 ●市内の医療提供体制の維持・継続に向けた取組を強化していくこと。 |
| 審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | III | <ul style="list-style-type: none"> ●地域における運動習慣の定着を図るため、引き続き関係機関と連携し、ウォーキングをはじめとした各種運動の普及拡大に取り組むとともに、地域資源である自然環境等を活用したクアールト健康ウォーキングによる市民の健康づくりや生活習慣病予防を推進すること。 ●健(検)診会場での感染防止対策に万全を期すとともに、さらに受診しやすい環境づくりに努め、受診率の向上につなげること。 ●市内の医療提供体制の維持・継続に向けた取組を強化していくこと。 |

令和3年度施策評価(第3次総合計画)

| 1 施策の概要 | |
|-----------|--|
| まちづくりの大綱 | 4 全ての人が元気に活躍できるまちづくり |
| 基本施策 | 2 全てを支える地域福祉づくり【福祉介護】 |
| 関係課 | 福祉介護課 |
| 主要施策 | 1 介護予防・高齢者福祉の充実 2 障がい者福祉の充実 3 生活困窮者等の自立支援 |
| |     |
| R3予算額(千円) | 181,475 |
| R3決算額(千円) | 158,863 |

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。




| 2 施策目標の達成状況 | | 指標名 | 単位 | 現況値 | 目標値 | 目標値の根拠 | 区分 | R2年度 | R3年度 | 目標達成率が70%未満の要因等 |
|-------------|---------------------------|---------------------------------------|----|-----------------|----------------|---|--------|--------|--------|---|
| 1 | 要介護認定率 | 65歳以上人口における要介護認定者数の割合(予測される増加を抑制) | % | 20.1 (H30) | 21.0 (R3) | R7年度22.8%の将来推計であるため、これを下回ることを目指す | 実績値 | 19.3 | 19.5 | |
| | 指標の説明 | | | ↘ | 目標達成率 | | 107.3% | 107.7% | | |
| 2 | 訪問型サービス・通所型サービス利用者の改善・維持率 | 訪問型サービス・通所型サービス利用者のうち状態が改善・維持している人の割合 | % | 97.5 (H30) | 97.5 (R3) | 現況値以上を目標とする | 実績値 | 94.7 | 95.2 | |
| | 指標の説明 | | | → | 目標達成率 | | 97.1% | 97.6% | | |
| 3 | 地域の茶の間実施数 | 月2回以上開催している地域の茶の間の実施箇所数 | 地区 | 32 (H30) | 35 (R3) | 毎年度1地区ずつの増加を目指す | 実績値 | 35 | 35 | |
| | 指標の説明 | | | ↗ | 目標達成率 | | 102.9% | 100.0% | | |
| 4 | 生活支援ボランティアの登録支援者数 | 社会福祉協議会において生活支援サービスを提供する有償ボランティア数 | 人 | 55 (H30) | 65 (R3) | 毎年5人ずつの増加を目指す | 実績値 | 60 | 61 | |
| | 指標の説明 | | | ↗ | 目標達成率 | | 100.0% | 93.8% | | |
| 5 | 障がい者のサービス利用割合 | 手帳保持者のうちサービス等利用計画を作成した人数の割合 | % | 21.5 (H30) | 24.2 (R3) | 手帳保持者は人口ビジョンの将来推定人口を基に1,805に設定 サービス等利用計画作成件数は障がい福祉計画に定めた目標値472を上回る480に設定 | 実績値 | 23.5 | 23.8 | |
| | 指標の説明 | | | ↗ | 目標達成率 | | 100.0% | 98.3% | | |
| 6 | 手話奉仕員の人数 | 妙高市手話奉仕員認定者数 | 人 | 3 (H30) | 4 (R3) | 現況値から2人増を目標とする | 実績値 | 4 | 4 | |
| | 指標の説明 | | | ↗ | 目標達成率 | | 100.0% | 100.0% | | |
| 7 | 市内就労支援施設利用者の工賃月額 | 就労継続支援B型利用者の作業工賃月額平均 | 円 | 16,245 (H30) | 17,620 (R3) | 年間約460円増を目標とする ※新潟県工賃向上計画に示す目標値 | 実績値 | 14,449 | 13,768 | |
| | 指標の説明 | | | ↗ | 目標達成率 | | 84.2% | 78.1% | | |
| 8 | 就労支援による被保護者の就労者数の割合 | 支援対象者に対する就労者数の割合(年度末現在) | % | 56 (H30) | 68 (R3) | 就労者を前年度比1名増とすることを目標とする | 実績値 | 40 | 44 | 相談業務により、一時的に就労に結び付いた者もあったが、継続した就労には繋がらなかったため。 |
| | 指標の説明 | | | ↗ | 目標達成率 | | 62.5% | 64.7% | | |
| 9 | 就労支援による保護廃止件数 | 就労支援による就労をきっかけとした保護廃止件数 | 件 | 1 (H30) | 2 (R3) | 現況値よりも1~2件増を目標とする | 実績値 | 2 | 0 | 相談業務により、一時的に就労に結び付いた者もあったが、継続した就労には繋がらなかったため。 |
| | 指標の説明 | | | ↗ | 目標達成率 | | 200.0% | 0.0% | | |
| 10 | 支援プラン作成件数に対する就労者数の割合 | 生活困窮者等自立支援事業における支援プラン作成件数に対する就労者数の割合 | % | 50 (H30) | 62 (R3) | 前年度比2名程度増を目標とする(就労者数) | 実績値 | 34.6 | 50 | |
| | 指標の説明 | | | ↗ | 目標達成率 | | 61.8% | 80.6% | | |

| 3 施策を構成する主な事業 | | | | |
|---------------|---------|---------------|---------------|---|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 |
| 1 | (96480) | 1,2 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●介護予防における短期集中型サービスの実施とケアプランの点検に取り組むことにより、要介護認定率は低下傾向にある。また、教室卒業後の介護予防を継続していくため、R4年度からの移動支援サービスの提供準備を行った。 ●訪問・通所リハビリ、短期集中型サービス、地域の茶の間と状態にあわせて利用が循環する仕組みを各機関と構築し、効果的な機能回復を図る必要がある。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 2 | (96483) | 1,3 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●介護予防健康調査の対象年齢を拡大したことで、より正確な高齢者の現状把握を行うことができた。基本チェックリストの該当者を対象に訪問を実施し、個々の生活状況や身体状況の把握、教室勧奨に繋げることができた。 ●コロナ禍の影響により健康教室等の人が集まる場所への参加を拒否される方が多く、フレイル予防に対する意識向上の取組が困難になっている。また、加齢等を理由に介護予防サポーターを辞退される方もおり、アフターコロナを見据えた効果的な取組や人材確保を行う必要がある。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 3 | (70090) | 4 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●生活支援サービスを提供する有償ボランティアが増加傾向にあり、高齢者や障がい者などへの福祉サービスの提供や相談体制の充実が図られ、地域福祉の向上に繋げることができている。 ●高齢化の進展や家族・地域における相互扶助機能の低下などにより、生活支援サービスの重要性が増していることから、高齢者世帯や障がい者の日常生活支援を行う生活支援ボランティアの強化を図る必要がある。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 4 | (71062) | 5 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●電話連絡等により障がい者等の安否確認や不安解消に努めた。また、新規の障がい者手帳所持者への訪問を再開し、障がい福祉サービスの利用に繋げることができた。さらに、地域活動支援センターの余暇活動についても、感染予防対策を徹底しながら市内で完結するプログラムを実施した。 ●感染予防対策を徹底しながら、コロナ禍による不安定な生活に配慮した支援を行う必要がある。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 5 | (71060) | 6,7 | 見直し | <ul style="list-style-type: none"> ●地域生活支援拠点マニュアルに基づき、支援世帯及び受入対応事業所を登録し、緊急時の受入体制を整えた。手話言語条例については、市報及びホームページにより広く周知し、手話やろう者に対する理解を深めた。 ●地域生活支援拠点の未整備機能について、引き続き整備・検討に取り組むとともに、支援世帯の登録を促す必要がある。 ●手話通訳体制を強化するため、手話通訳者の養成を図る必要がある。障がい者の工賃アップに向けては、就労支援事業所からの要望等への事業マッチングや活動に対するバックアップに取り組む必要がある。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 6 | (71580) | 8,9 | 見直し | <ul style="list-style-type: none"> ●相談業務が効果的に作用し、就労支援対象者18名に対し、令和4年3月末現在8名が就労しており、R3年度に新規就労した3名については半年以上と就労が定着している。就労時の相談により1世帯を保護停止とした。 ●就労時・非就労時に関わらず支援員が被保護者の現状や就労上の問題を把握・整理していくため、相談日に来られない者の自宅への訪問やハローワークの出張相談等を通じて相談機会を確保する。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 7 | (93801) | 10 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●就労支援対象者40名に対し、令和4年3月末現在6名が就労している。市報でのひきこもりの周知や不登校・ひきこもりの家族等を対象とした研修会を開催し、情報交換を行うことができた。 ●相談支援員を中心に、相談者の悩みに寄り添い、個々の状況に応じた支援を継続する。今後も社会福祉協議会、民生委員・児童委員から情報収集を行い、相談を必要とする方の早期発見に繋げるようにする。また、「ひきこもり家族の集い」や教育委員会との合同研修会を継続して行う。 |
| | | | | R3予算額(千円) |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|--|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | <ul style="list-style-type: none"> ●介護予防における短期集中型サービスの実施とケアプランの点検に取り組むことにより、要介護認定率の抑制を図った。 ●コロナ禍の中で障がい者に対しては、電話連絡等の定期的な相談支援を実施することで不安解消に努めた。また、新規の障がい者手帳所持者への訪問を再開し、障がい福祉サービスの利用に繋げることができた。 ●農福連携の推進に向けた加工用ブドウ栽培については、天候や作業内容等の状況から思うような作業が実施できなかったこともあり、障がい者工賃は減少傾向が続いている。 ●生活保護受給者及び生活困窮者に対する相談業務を実施しているものの、就労者の割合や保護の停止件数は目標を達成していない状況となっている。 |

| 5 今後の方向性 | | |
|---|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 今後の方向性 |
| 庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | II | <ul style="list-style-type: none"> ●高齢者が自身で介護予防活動を振り返り、実践に繋がる取組を促すとともに、筋力向上型・短期集中型通所サービス卒業後の社会参加と介護予防の取組強化として、新たに通いの場への移動を支援するなど循環型介護予防に積極的に取り組んでいくこと。 ●障がい者が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、生活支援及び社会参加を促進する取組の強化を図るとともに、緊急時の相談や受入を充実させ、関係機関と連携した包括的な支援体制を維持すること。 ●生活困窮者の個々の実情に応じた支援を強化し、自立に繋げていくこと。 |
| 審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | II | <ul style="list-style-type: none"> ●高齢者が自身で介護予防活動を振り返り、実践に繋がる取組を促すとともに、筋力向上型・短期集中型通所サービス卒業後の社会参加と介護予防の取組強化として、新たに通いの場への移動を支援するなど循環型介護予防に積極的に取り組んでいくこと。 ●障がい者が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、生活支援及び社会参加を促進する取組の強化を図るとともに、緊急時の相談や受入を充実させ、関係機関と連携した包括的な支援体制を維持すること。 ●生活困窮者の個々の実情に応じた支援を強化し、自立に繋げていくこと。 |

令和3年度施策評価(第3次総合計画)

| 1 施策の概要 | | | | | |
|---|-------------------------------------|---------------------|---------|-----------|---------|
| まちづくりの大綱 | 4 | 全ての人々が元気に活躍できるまちづくり | | | |
| 基本施策 | 3 | 住民主体の地域づくり【地域づくり】 | | | |
| 関係課 | 地域共生課 | | | | |
| 主要施策 | 1 地域コミュニティの維持・再生 2 移住・定住による地域の維持 | | | | |
|    | | | | | |
| | | R3予算額(千円) | 127,214 | R3決算額(千円) | 112,139 |

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。





| 2 施策目標の達成状況 | | | | | | | | | |
|-------------|--------------------------|----|--|-------------|--------------------------------|-------|--------|--------|---|
| 指標名 | | 単位 | 現況値 | 目標値 | 目標値の根拠 | 区分 | R2年度 | R3年度 | 目標達成率が70%未満の要因等 |
| 1 | 地域運営組織の設立・運営数 | 組織 | 4 (H30) | 8 (R3) | 毎年2組織の設立を目標とする | 実績値 | 4 | 4 | 住民主体の地域づくりを進めるため、地域自らが課題を把握し、解決に向けて住民同士で協力しながら活動するよう誘導しているが、組織体制や行事の見直しなど地域全体で同意を得ることに時間を要するため。 |
| | 指標の説明 | | 地域住民が中心となって地域の課題解決に向けた取組を始めた組織数 | ↑ | | 目標達成率 | 66.7% | 50.0% | |
| 2 | 全住民アンケート等、地域の課題把握を行った地区数 | 地区 | 3 (H30) | 8 (R3) | 毎年2地区の増を目標とする | 実績値 | 7 | 7 | |
| | 指標の説明 | | 地域課題を把握するために活動した地区数 | ↑ | | 目標達成率 | 116.7% | 87.5% | |
| 3 | 課題解決のための将来ビジョンを策定した地区数 | 地区 | 1 (H30) | 8 (R3) | 毎年2地区の増を目標とする | 実績値 | 0 | 1 | 将来ビジョンは、地域自らのビジョンとして、地域が納得し自ら実践できる内容とする必要があり、話し合い等に時間を要したため、目標達成とは至らなかったもの。 |
| | 指標の説明 | | 課題解決に向け、今後の方向性を明確にした地区数 | ↑ | | 目標達成率 | 0.0% | 12.5% | |
| 4 | 地域づくりコーディネーターの数 | 人 | 3 (H30) | 10 (R3) | 54の地域づくり協議会の半数以上にリーダーがいる状態を目指す | 実績値 | 5 | 7 | |
| | 指標の説明 | | 地域活動のリーダーであるコーディネーターの数 | ↑ | | 目標達成率 | 100.0% | 70.0% | |
| 5 | 市内で活動する市民活動団体の数 | 法人 | 23 (H30) | 25 (R3) | 認可された組織化を目指し、継続的な活動につなげる | 実績値 | 23 | 24 | |
| | 指標の説明 | | 市内で活動するNPO法人数 | ↑ | | 目標達成率 | 95.8% | 96.0% | |
| 6 | 移住支援窓口を通じた移住者数 | 人 | 437 (H30) | 760 (R3) | 毎年110人の移住を目標とする | 実績値 | 675 | 842 | |
| | 指標の説明 | | 住宅取得等の支援により移住した人数(H26年度からの累計) | ↑ | | 目標達成率 | 103.8% | 110.8% | |
| 7 | 移住・定住を目的とした空き家等の活用数 | 件 | 116 (H30) | 210 (R3) | 毎年30件の空き家活用を目標とする | 実績値 | 190 | 223 | |
| | 指標の説明 | | 空き家登録制度に登録された空き家が利用(売却)された件数(H21年度からの累計) | ↑ | | 目標達成率 | 105.6% | 106.2% | |
| 8 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | - | - | |
| 9 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | - | - | |

| 3 施策を構成する主な事業 | | | | |
|---------------|----------------------------|---------------|---------------|---|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 |
| 1 | (101200) | 1 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●矢代地区に配置した協力隊は、地域の魅力発信や地域行事に参加しながら住民と一緒に活性化に向けた活動を実施した。 ●協力隊の活動を明確にし、地域の理解と協力を得ながら、地域の活性化に取り組んでいく必要がある。 |
| | 地域のこし協力隊活動推進事業 | | | R3予算額(千円) |
| 2 | (101201) | 1~5 | 改善 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域の自主的、主体的な活動に繋げていくために、地域づくり活動総合交付金の充実を図った結果、申請団体が増加(R2:18団体→R3:23団体)した。 ●新たに新井南部地域に2名の地区担当職員を配置し、安心して暮らし続けられる地域づくりを進めるため、要援護者の支援体制の構築、避難訓練の実施や個別受信機の設置など、人命に関わるセーフティネットの構築に努めた。 ●住民主体の地域づくり活動を継続させるため、交付金の充実を図るとともに、SDGs未来都市として、地域からも認識を高めてもらうために地域が取り組めるSDGsメニューを追加し、意識啓発と積極的な活動に繋げていく必要がある。 ●水原地区や泉地区の一部以外の高齢化や人口減少が著しい地区に対しても、地区担当職員を増員しながら住民の安全安心な暮らしを確保していく必要がある。 |
| | 地域づくり応援事業 | | | R3予算額(千円) |
| 3 | (50404・50405) | 6 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●住宅取得等支援事業を活用した転入者は、前年度よりも56件142人と増加しており、UIターン促進住宅支援事業の利用件数についても増加傾向にあることから、一定の成果が得られている。 ●住宅取得等支援事業及びUIターン促進住宅支援事業については、人口減少対策として効果が得られていることから本制度を継続していく。なお、UIターン促進住宅支援事業においては、住宅取得等支援事業との併用が可能であるため、PRを強化し、さらなる定住を促進する。 |
| | 住宅取得等支援事業 UIターン促進住宅支援事業 | | | R3予算額(千円) |
| 4 | (50406) | 7 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●空き家情報登録制度における成約件数は、R2の39件からR3は43件に増加するとともに、空き家見学ツアーを通じて移住に繋がるなど転入者の増加が図られた。 ●首都圏などの移住検討者等に対する情報発信を強化し、さらなる移住・定住施策を推進していく必要がある。 |
| | 妙高ふるさと暮らし応援事業 | | | R3予算額(千円) |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | <ul style="list-style-type: none"> ●地域づくり活動総合交付金の充実を図った結果、申請団体が増加した。 ●新たに新井南部地域に2名の地区担当職員を配置し、要援護者の支援体制の構築、避難訓練の実施や個別受信機の設置など、人命に関わるセーフティネットの構築に努めるとともに、「妙高市地域コミュニティ振興指針」を改訂し、今後の地域づくりの方向性を明確にした。 ●住宅取得等支援事業・UIターン促進住宅支援事業による移住者数や空き家情報登録制度の利用による空き家の活用件数は目標値を上回ったことから、人口減少対策として一定の効果があった。 |

| 5 今後の方向性 | | |
|---|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 今後の方向性 |
| 庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | I | <ul style="list-style-type: none"> ●地域運営組織の設立・運営をサポートするとともに、地域づくりリーダーの発掘を進め、地域の実情にあった主体的な課題解決へ繋げていくこと。 ●SDGs未来都市として、地域からも認識を高めてもらうために地域が取り組めるSDGsメニューを追加し、意識啓発と積極的な活動に繋げていくこと。 ●アフターコロナを見据えたICTを活用したさらなる移住定住関係の情報発信の充実を図るとともに、空き家の有効活用を推進するための体制を強化すること。 |
| 審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | I | <ul style="list-style-type: none"> ●地域運営組織の設立・運営をサポートするとともに、地域づくりリーダーの発掘を進め、地域の実情にあった主体的な課題解決へ繋げていくこと。 ●SDGs未来都市として、地域からも認識を高めてもらうために地域が取り組めるSDGsメニューを追加し、意識啓発と積極的な活動に繋げていくこと。 ●アフターコロナを見据えたICTを活用したさらなる移住定住関係の情報発信の充実を図るとともに、空き家の有効活用を推進するための体制を強化すること。 |

令和3年度施策評価(第3次総合計画)

| 1 施策の概要 | | | |
|--|-----------------|---------------------|-----------------|
| まちづくりの大綱 | 4 | 全ての人が元気に活躍できるまちづくり | |
| 基本施策 | 4 | 全ての人が平等な地域社会づくり【人権】 | |
| 関係課 | 市民税務課、生涯学習課、総務課 | | |
| 主要施策 | 1 人権意識の向上 | | |
|     | | | |
| R3予算額(千円) | | 1,850 | R3決算額(千円) 1,219 |

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。


| 2 施策目標の達成状況 | | | | | | | | | |
|-------------|----------------------|----|---------------|--------------|----------------------|-------|-------|------|----------------------------------|
| 指標名 | | 単位 | 現況値 | 目標値 | 目標値の根拠 | 区分 | R2年度 | R3年度 | 目標達成率が70%未満の要因等 |
| 1 | 人権講演会等の参加者数 | 人 | 830 (H30) | 900 (R3) | 現況値から毎年度約35人増を目標とする | 実績値 | 680 | 530 | ・コロナ禍の影響により、参加者を小中学生に限定して実施したため。 |
| | 指標の説明 人権講演会等の参加者数 | | ↗ | 目標達成率 | | 78.6% | 58.9% | | |
| 2 | 審議会等への女性登用率 | % | 31.1 (H30) | 36.8 (R3) | 現況値から毎年度約1.5%増を目標とする | 実績値 | 27.8 | 28.8 | |
| | 指標の説明 審議会等への女性登用率 | | ↗ | 目標達成率 | | 78.8% | 78.3% | | |
| 3 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |
| 4 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |
| 5 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |
| 6 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |
| 7 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |
| 8 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |
| 9 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |

| 3 施策を構成する主な事業 | | | | | |
|---------------|----------------|---------------|---------------|---|--|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 | |
| 1 | (90082) | 1 | 維持 | ●コロナ禍の影響により全ての事業は実施できなかったが、県事業を活用した講演会や子どもへの暴力防止プログラムの実施など教育現場とのタイアップによる人権教育事業に取り組み、小・中学校において児童生徒の人権に対する意識を高めた。(いじめ解消率:R2:81.1%、R3:83.1%→2ポイント改善) ●新型コロナウイルス感染症やその家族、医療従事者等への誹謗中傷、LGBTQIA+の方への偏見など新たな課題の発生も懸念されており、差別の根絶、予防に向け、一層の啓発に取り組んでいく必要がある。 | |
| | 人権啓発活動事業 | | | | |
| 2 | (30311) | 2 | - | (経常経費のため事後評価対象外) ●女性が活躍できる社会づくりに向けて、ハッピーパートナー企業への登録を通じて男女共同参画を推進した。 ●コロナ禍の影響により、経済的困窮や孤独・孤立で不安を抱える女性を対象に、社会的な繋がりを回復するための支援を県との連携により実施した。 ●育児・介護休業法が来年度より順次施行され、育児や介護と仕事の両立が一層推進されるため、性別を問わず働きやすい環境づくりや、固定的な性別による役割意識の解消を図る必要がある。 | |
| | 男女共同参画推進事業 | | | | |
| 3 | (160320) | - | - | (経常経費のため事後評価対象外) | |
| | 日本語教室あいうえおスクール | | | | |
| 4 | | | | | |
| | | | | | |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | ●コロナ禍の影響により全ての事業は実施できなかったが、県事業を活用した講演会や子どもの暴力防止プログラムの実施など教育現場とのタイアップによる人権教育事業に取り組み、児童生徒の人権に対する意識を高めた。 |

| 5 今後の方向性 | | |
|---|------|--|
| 区分 | 選択区分 | 今後の方向性 |
| 庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | I | ●インターネット上の人権侵害や新型コロナウイルス感染症に関係した誹謗中傷、LGBTQIA+の方への偏見など新たな課題の発生も懸念されていることから、効果的な普及啓発活動を強力に進めること。 ●ジェンダー平等の実現に向けて、より多くの女性が活躍できる環境づくりに努めること。 |
| 審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | I | ●インターネット上の人権侵害や新型コロナウイルス感染症に関係した誹謗中傷、LGBTQIA+の方への偏見など新たな課題の発生も懸念されていることから、効果的な普及啓発活動を強力に進めること。 ●本市においては、審議会等への女性登用率をはじめ男女の社会参画に課題があることから、誰一人取り残さないというSDGsの理念のもと、ゴールの一つであるジェンダー平等の実現に向けて、より多くの女性が活躍できる環境づくりに努めること。 |

令和3年度施策評価(第3次総合計画)

| 1 施策の概要 | |
|--|-------------------------------------|
| まちづくりの大綱 | 5 郷土を築く人と文化を育むまちづくり |
| 基本施策 | 1 安心して子どもを育てられる環境づくり【子育て】 |
| 関係課 | 地域共生課、健康保険課、こども教育課 |
| 主要施策 | 1 結婚・出産・子育て支援の充実 2 幼児の教育・保育環境の充実 |
|  | |
| R3予算額(千円) 1,333,077 R3決算額(千円) 1,308,899 | |

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

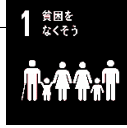



| 2 施策目標の達成状況 | | 指標名 | 単位 | 現況値 | 目標値 | 目標値の根拠 | 区分 | R2年度 | R3年度 | 目標達成率が70%未満の要因等 |
|-------------|---------------------------|-------|----|------|------|--|-------|--------|--------|--|
| 1 | 市の事業を通じての成婚数 | | 組 | — | 8 | 年間4組の成婚数を目標とする | 実績値 | 3 | 5 | 男性会員に対して女性会員が少なく、出会いの機会を増やすことができなかったため |
| | | (H30) | | (R3) | ↑ | | 目標達成率 | 75.0% | 62.5% | |
| 2 | 安心して妊娠・出産を迎えられる妊婦の割合 | | % | — | 100 | 出産した妊婦全員が安心したという結果を目指す | 実績値 | 84 | 86 | |
| | | (H30) | | (R3) | ↑ | | 目標達成率 | 84.0% | 86.1% | |
| 3 | ファミリー・サポート・センターのサービス提供会員数 | | 人 | 165 | 182 | 毎年度約4%の増加を目指す | 実績値 | 170 | 179 | |
| | | (H30) | | (R3) | ↑ | | 目標達成率 | 96.6% | 98.4% | |
| 4 | 虐待案件の解決数 | | % | 13 | 16 | 現況値から毎年度約1%増を目標とする | 実績値 | 35 | 24 | |
| | | (H30) | | (R3) | ↑ | | 目標達成率 | 233.3% | 150.0% | |
| 5 | 園運営に満足している保護者の割合 | | % | 96.8 | 100 | 保護者全員の満足を目指す | 実績値 | 96.2 | 97.8 | |
| | | (H30) | | (R3) | ↑ | | 目標達成率 | 96.2% | 97.8% | |
| 6 | 園舎整備率 | | % | 70 | 70 | R6までの幼稚園・保育園整備構想に基づく新設の統合園を3園とすることを目標とする | 実績値 | 70 | 70 | |
| | | (H30) | | (R3) | → | | 目標達成率 | 100.0% | 100.0% | |
| 7 | 待機児童の発生人数 | | 人 | 0 | 0 | 待機児童を発生させないことを目指す(0人を維持する) | 実績値 | 0 | 0 | |
| | | (H30) | | (R3) | → | | 目標達成率 | 100.0% | 100.0% | |
| 8 | 標準的な体格の園児の割合 | | % | 94.9 | 95.5 | 現況値から毎年度約0.5%増を目標とする | 実績値 | 94.1 | 93.9 | |
| | | (H30) | | (R3) | ↑ | | 目標達成率 | 99.1% | 98.3% | |
| 9 | 朝食の欠食率 | | % | 1 | 1 | 現況値以下を目標とする | 実績値 | 0.6 | 1.7 | |
| | | (H30) | | (R3) | → | | 目標達成率 | 166.7% | 58.8% | |

| 3 施策を構成する主な事業 | | | | |
|---------------|----------|---------------|---------------|---|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 |
| 1 | (90084) | 1 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●感染防止対策を実施した上で、婚活イベントを実施し、2組の成婚に繋がった。 ●男性会員の103人に対し、女性会員22人と差が大きいため、女性会員を増やし、さらなる出会いの機会を増やすとともに、結婚に結び付く効果的なイベントを開催していく必要がある。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 2 | (71271) | 4 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●臨床心理士や家庭児童支援専門員、保健師等がケースの状況に応じて相談対応することにより、保護者の子育てに関する悩みの解消や軽減に繋がった。虐待や相談支援に関する研修会を受講したことで、各々の相談支援や拠点運営などへの活用に繋がった。 ●虐待の早期発見や予防を図るため、子育て世代包括支援センターと連携した妊娠や乳幼児期からの介入支援が必要である。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 3 | (71282) | 2,3 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●子育て広場やファミリー・サポート・センター事業を通じて、子育て不安の早期解消を図った。 ●子育て広場の利用者の低年齢化が進むことから、適切な対応を行う必要がある。ファミリー・サポート・センター事業については、利用者が固定化しており、新たな利用者が増加していないことから、情報発信等に係る見直しを検討する必要がある。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 4 | (96865) | 5,7 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●園児の豊かな人間性と生きる力を育成するため、各種保育サービスを提供し、保護者の満足度の向上に繋がった。 ●未満児の増加に対応するため、有資格保育士の確保と適正配置による保育サービスの提供や、コロナ禍での保護者とのコミュニケーションの充実と園運営への理解の促進を図る必要がある。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 5 | (100302) | 6 | — | <ul style="list-style-type: none"> ●園整備構想に基づく、第三保・斐太南保・矢代保の統合園整備が完了し、幼児教育や保育環境の充実を図った。 |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 6 | (71284) | 8 | — | (経常経費のため事後評価対象外) |
| | | | | R3予算額(千円) |
| 7 | (100302) | 2 | — | <ul style="list-style-type: none"> ●妊産婦・子ども医療費助成により、早期受診や早期治療を促進するとともに、子育て世帯の経済的な負担軽減を図った。 ●出産サポートタクシー費用助成、第3子以降の出産費用助成等の実施により、安心して妊娠・出産を迎えられる妊婦の割合は増加した。 ●今後も妊産婦の健康確保と安心して出産できる環境を提供していく必要がある。また、令和3年度の出生数は126人と前年比30人の減と少子化に歯止めがかけられていないことから、子どもを産み育てることができる環境の充実を図る必要がある。 |
| | | | | R3予算額(千円) |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|--|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | <ul style="list-style-type: none"> ●安心して子どもを育てられるよう、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を実施した。 ●臨床心理士や家庭児童支援専門員、保健師等がケースの状況に応じ相談対応することにより、保護者の子育てに関する悩みの解消や軽減に繋がっているほか、ファミリー・サポート・センターのまかせて会員の増加など、子育て支援体制の充実につながっている。 ●園活動の充実や保育人材の確保、育成、保育環境の向上に努め、保護者から例年高い評価が得られている。 ●関係機関との情報共有や連携、保護者に対しての悩みに応じた相談や定期的な見守りの実施などにより、虐待の早期発見に繋がっている。 |

| 5 今後の方向性 | | | |
|----------|--|------|---|
| 区分 | | 選択区分 | 今後の方向性 |
| 庁内評価委員会 | I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | I | <ul style="list-style-type: none"> ●子育て世帯における不安と負担の軽減、仕事と子育ての両立のための方策の充実を図っていくこと。 ●コロナ禍においても保護者とのコミュニケーションの充実と園運営への理解の促進を図るため、ICT化を推進すること。 ●虐待に関する保護者支援の強化、要保護児童などへの適切な支援や相談体制について、引き続き関係機関と連携して強化を図ること。また、虐待に対する支援方法等について情報発信を行う中で、市民の理解を高めていくこと。 |
| 審議会 | I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | I | <ul style="list-style-type: none"> ●子育て世帯における不安と負担の軽減、仕事と子育ての両立のための方策の充実を図っていくこと。 ●コロナ禍においても保護者とのコミュニケーションの充実と園運営への理解の促進を図るため、ICT化を推進すること。 ●虐待に関する保護者支援の強化、要保護児童などへの適切な支援や相談体制について、引き続き関係機関と連携して強化を図ること。また、虐待に対する支援方法等について情報発信を行う中で、市民の理解を高めていくこと。 |

令和3年度施策評価(第3次総合計画)

| 1 施策の概要 | | | | | | | | | | |
|----------|---|-------------------|--|--|---|---------|-----------|---------|--|--|
| まちづくりの大綱 | 5 | 郷土を築く人と文化を育むまちづくり | | | | | | | | |
| 基本施策 | 2 | 質の高い教育環境づくり【教育】 | | | | | | | | |
| 関係課 | こども教育課 | | | | | | | | | |
| 主要施策 | 1 健やかな心と体の育成 2 確かな学力の定着に向けた支援 3 学習環境の整備 | | | |     | | | | | |
| | | | | | R3予算額(千円) | 296,699 | R3決算額(千円) | 276,799 | | |

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

| 2 施策目標の達成状況 | | | | | | | | | |
|-------------|-------------------------------------|----|------------------------------------|-------------|-----------------------|-------|--------|--------|---|
| 指標名 | | 単位 | 現況値 | 目標値 | 目標値の根拠 | 区分 | R2年度 | R3年度 | 目標達成率が70%未満の要因等 |
| 1 | いじめが解消された割合 | % | 97.3 (H30) | 100 (R3) | 発生したいじめの完全解消、発生抑制を目指す | 実績値 | 81.1 | 83.1 | |
| | 指標の説明 | | 学校調査によるいじめ発生件数に対する3カ月以上観察後の解消件数の割合 | ↑ | | 目標達成率 | 81.1% | 83.1% | |
| 2 | 肥満度が20%以上の児童生徒の割合 | % | 7.4 (H30) | 7.2 (R3) | 現況値から0.4%減を目標とする | 実績値 | 7.48 | 8.2 | |
| | 指標の説明 | | 学校健診による肥満度20%以上の児童生徒の割合 | ↓ | | 目標達成率 | 97.9% | 87.8% | |
| 3 | 全国標準学力検査(NRT)の得点率が全国平均を超えた割合(国語) | % | 100 (H30) | 100 (R3) | 100%の維持を目指す | 実績値 | 90.9 | 100 | |
| | 指標の説明 | | 全国標準学力検査の観点別集計で全国平均を上回った割合(国語) | → | | 目標達成率 | 90.9% | 100.0% | |
| 4 | 全国標準学力検査(NRT)の得点率が全国平均を超えた割合(算数・数学) | % | 100 (H30) | 100 (R3) | 100%の維持を目指す | 実績値 | 90.9 | 90.9 | |
| | 指標の説明 | | 全国標準学力検査の観点別集計で全国平均を上回った割合(算数・数学) | → | | 目標達成率 | 90.9% | 90.9% | |
| 5 | 全国標準学力検査(NRT)の得点率が全国平均を超えた割合(英語) | % | 100 (H30) | 100 (R3) | 100%の維持を目指す | 実績値 | 100 | 0 | |
| | 指標の説明 | | 全国標準学力検査の観点別集計で全国平均を上回った割合(英語) | → | | 目標達成率 | 100.0% | 0% | |
| 6 | 外国人と関わる活動に参加した児童生徒の割合 | % | 13 (H30) | 17 (R3) | 年2%の増を目標とする | 実績値 | 1.2 | 5 | コロナ禍に伴い各種事業が中止となったため。 |
| | 指標の説明 | | 外国人と関わる活動に参加した児童生徒数が全児童生徒数に占める割合 | ↑ | | 目標達成率 | 8.0% | 29.4% | |
| 7 | 長寿命化改修・大規模改造工事の実施校数 | 校 | — (H30) | 6 (R3) | 学校施設長寿命化計画より | 実績値 | 3 | 4 | 建築年度からの経過年数をもとに改修工事を計画していたが、緊急性の高いところから、順次実施しているため。 |
| | 指標の説明 | | 学校施設長寿命化計画に基づく改修・改造工事延べ実施校数 | ↑ | | 目標達成率 | 60.0% | 66.7% | |
| 8 | 特別教室への冷房設備設置工事の実施校数 | 校 | — (H30) | 11 (R3) | 学校施設長寿命化計画より | 実績値 | 11 | 11 | |
| | 指標の説明 | | 整備計画に基づく設置工事の実施校数 | ↑ | | 目標達成率 | 183.3% | 100.0% | |
| 9 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |





| 3 施策を構成する主な事業 | | | | | |
|---------------|-----------------|---------------|---------------|--|--|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 | |
| 1 | (150090) | 1 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●いじめは、学校において年5回の発生状況の確認を行うなど早期発見に取り組んでいる。また、不登校については、適応指導教室指導員、スクールソーシャルワーカーや学校などが連携して対応にあたることで、一部の児童生徒の再登校に繋がっている。さらに、市内4小学校でスクールロイヤーによる「いじめ防止講演会」を実施し、いじめ防止の意識啓発を図った。 ●いじめの重大事態は発生していないが、いじめの認知件数は増加しており、引き続き、被害児童生徒に寄り添った対応を行い解決を図る。 | |
| | いじめ・不登校対策推進事業 | | | | |
| 2 | (150360・150780) | 3,4 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●クラウド型学習支援アプリ(ロイノート)を活用することで1人1台タブレット端末の利活用が進み、協働的な学習を実施することができた。各教科で読解力育成の視点を指導案に取り入れた授業を行い、効果的な授業内容については教職員間で共有することができた。 ●中学校のNRTで国語1年、数学1、2年が全国平均を下回る結果となっており、引き続き、教育補助員の配置、放課後等学習支援事業により学習支援を行っていく。 | |
| | 基礎学力向上支援事業 | | | | |
| 3 | (150890) | 5,6 | 拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ●新たにALT5名が配置され、8名による英語教育推進の体制が整った。園・小・中学校の連続性のある英語教育の実現のため、全園での英語活動の実施など取り組みの環境整備を行った。 ●園での英語活動実施に向けたカリキュラムの作成、ALTの教育が必要であり、中学校の英語力低下と小学校及び中学校における継続性のある英語教育を推進する必要がある。 | |
| | 英語教育支援事業 | | | | |
| 4 | (150340・150760) | 7 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●新井中学校校舎給水管等改修工事(北校舎)の大規模改修工事を実施した。 ●建物の経年劣化等の進行状況を的確に把握し、計画的に改修工事や設備の更新を行う必要がある。 | |
| | 中学校大規模改修事業 | | | | |
| 5 | (150209) | 2 | - | (経常経費のため事後評価対象外) | |
| | 学校給食運営・食育推進事業 | | | | |
| 6 | | | | | |
| | | | | | |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | <ul style="list-style-type: none"> ●市内4小学校でスクールロイヤーによるいじめ防止講演会を実施し、適応指導教室指導員、スクールソーシャルワーカーや学校などがいじめ・不登校の発生防止、早期発見に努めた結果、すべての解消には至っていないが、いじめ解消率は改善傾向にある。 ●多人数学級や複式学級への教育補助員の配置や放課後などにおける学習支援に取り組んだことにより、小学生における全国標準学力検査の結果は全国平均を上回る結果となった。 ●新たにALT5名が配置され、8名による園・学校における連続性のある英語教育の実現に向けた体制が整った。 |

5 今後の方向性

| 区分 | | 選択区分 | 今後の方向性 |
|---------|--|------|---|
| 庁内評価委員会 | I：事業拡大(追加・発展) II：改善(事業内容の見直し) III：継続(現状維持) IV：中止・廃止 V：予定通り事業終了 | II | <ul style="list-style-type: none"> ●いじめや保護者とのトラブルに適切に対応するため、引き続きスクールロイヤーとの連携によりいじめ防止に対する意識を高めること。また、不登校児童生徒の発生防止、早期発見と解消に向けた支援を継続すること。 ●コロナ禍における学習効果を高めていくため、ICTを活用したリモート授業を推進するとともに、不登校の子ども達に対する授業支援策としても有効活用すること。 ●児童生徒の文章を正しく読み解く力の実態把握に努めるとともに、その結果を踏まえた授業改善により基礎学力の向上に向けて取り組むこと。 ●中学校の英語力低下への対応と小学校及び中学校における実用的な英語教育を推進すること。 |
| 審議会 | I：事業拡大(追加・発展) II：改善(事業内容の見直し) III：継続(現状維持) IV：中止・廃止 V：予定通り事業終了 | II | <ul style="list-style-type: none"> ●いじめや保護者とのトラブルに適切に対応するため、引き続きスクールロイヤーとの連携によりいじめ防止に対する意識を高めること。また、不登校児童生徒の発生防止、早期発見と解消に向けた支援を継続すること。 ●コロナ禍における学習効果を高めていくため、ICTを活用したリモート授業を推進するとともに、不登校の子ども達に対する授業支援策としても有効活用すること。 ●児童生徒の文章を正しく読み解く力の実態把握に努めるとともに、その結果を踏まえた授業改善により基礎学力の向上に向けて取り組むこと。 ●中学校の英語力低下への対応と小学校及び中学校における実用的な英語教育を推進すること。 |

令和3年度施策評価(第3次総合計画)

| 1 施策の概要 | |
|--|---|
| まちづくりの大綱 | 5 郷土を築く人と文化を育むまちづくり |
| 基本施策 | 3 豊かな心身をつくる環境づくり【生涯学習・スポーツ】 |
| 関係課 | 生涯学習課 |
| 主要施策 | 1 人生100年時代の生涯学習の推進 2 生涯を通じたスポーツ活動の推進 |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>4 質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p> </div> </div> | |
| R3予算額(千円) | 252,150 |
| R3決算額(千円) | 147,416 |

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

| 2 施策目標の達成状況 | | | | | | | | | |
|-------------|-------------------------|----|----------------------------|-----------------|--|-------|---------|---------|--|
| 指標名 | | 単位 | 現況値 | 目標値 | 目標値の根拠 | 区分 | R2年度 | R3年度 | 目標達成率が70%未満の要因等 |
| 1 | 社会教育施設利用者数 | 人 | 165,812 (H30) | 167,474 (R3) | 現況値から毎年約0.5%増とし、170,000人を目標とする | 実績値 | 55,419 | 93,150 | コロナ禍の影響により休館など利用制限措置をとったため減少したものの。 |
| | 指標の説明 | | 社会教育施設の年間延べ利用者数 | ↑ | | 目標達成率 | 33.3% | 55.6% | |
| 2 | 「オール妙高あいさつ運動」の参加者数 | 人 | 777 (H30) | 825 (R3) | 毎年25人増とし、900人を目標とする | 実績値 | 647 | 603 | |
| | 指標の説明 | | あいさつ運動の1日あたりの参加者数 | ↑ | | 目標達成率 | 80.9% | 73.1% | |
| 3 | 「妙高市民の心」推進応援事業所の登録件数 | 件 | 121 (H30) | 141 (R3) | 毎年10件増とし、170件を目標とする | 実績値 | 137 | 144 | |
| | 指標の説明 | | 事業所の登録件数 | ↑ | | 目標達成率 | 104.6% | 102.1% | |
| 4 | 生涯学習講座「まなびの杜」の参加者数 | 人 | 1,001 (H30) | 1,330 (R3) | 毎年概ね1割増とし、1,800人を目標とする | 実績値 | 752 | 145 | コロナ禍の影響により、オンラインでの開催が可能な講座のみの実施となったもの。 |
| | 指標の説明 | | 生涯学習講座の年間延べ受講者数 | ↑ | | 目標達成率 | 62.1% | 10.9% | |
| 5 | 地域活動人材登録者数 | 人 | 326 (H30) | 355 (R3) | 毎年15人増を目標とする | 実績値 | 402 | 244 | 地域活動人材登録者で活動を行っていない方をリストから削除するなど登録者名簿の精査を行ったもの。 |
| | 指標の説明 | | 地域活動人材の登録者数 | ↑ | | 目標達成率 | 118.2% | 68.7% | |
| 6 | 図書館の貸出利用者数 | 人 | 27,477 (H30) | 27,700 (R3) | 現況値の概ね1.5倍の利用者数を目標とする | 実績値 | 22,400 | 23,215 | コロナ禍の影響により、感染防止対策としての休館、利用制限等に伴い利用者が減少したものの。 |
| | 指標の説明 | | 図書館の年間延べ貸出利用者数 | ↑ | | 目標達成率 | 81.2% | 83.8% | |
| 7 | 成人における週1回以上のスポーツや運動の実施率 | % | 27.4 (H30) | 50 (R3) | 市民の2人に1人が実施することを目標とする | 実績値 | 51.2 | - | |
| | 指標の説明 | | 市民意識調査における回答の割合 | ↑ | | 目標達成率 | 102.4% | - | |
| 8 | 総合型地域スポーツクラブの利用者数 | 人 | 4,342 (H30) | 4,470 (R3) | 市民の運動習慣の定着やスポーツ実施率の向上により、毎年約1.0%の増を目標とする | 実績値 | 2,998 | 2,191 | コロナ禍の影響により、ジュニアスポーツクラブや各種教室が休止となり利用者数が減少したものの。 |
| | 指標の説明 | | 総合型地域スポーツクラブの年間延べ利用者数 | ↑ | | 目標達成率 | 67.7% | 49.0% | |
| 9 | ジュニア競技者の大会出場率 | % | 10 (H30) | 10.8 (R3) | 現況の県大会以上の出場者数(219人)を維持していくことを目標とする | 実績値 | 9.6 | 12.5 | |
| | 指標の説明 | | 市内小中学生のうち県大会以上の大会に出場した者の割合 | ↑ | | 目標達成率 | 91.4% | 115.7% | |
| 10 | スポーツ施設の利用者数 | 人 | 326,712 (H30) | 333,000 (R3) | 施設の市民利用を現行0.4%/年から0.5%/年に増加させるほか、合宿利用を計画期間内で3,000人程度の増を目標とする | 実績値 | 169,101 | 175,947 | コロナ禍の影響により、施設の利用制限や施設の休館をはじめ、練習や合宿の自粛、また、スポーツ大会が中止等となり、一般利用者や合宿利用者が大幅に減少したものの。 |
| | 指標の説明 | | スポーツ施設の年間延べ利用者数 | ↑ | | 目標達成率 | 51.1% | 52.8% | |


| 3 施策を構成する主な事業 | | | | |
|---------------|----------------|---------------|---------------|---|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 |
| 1 | (160130) | 6 | 改善 | <ul style="list-style-type: none"> ●図書館、生涯学習、子育て支援、市民交流の機能が融合し、街なかに賑わいを生み出す拠点施設を目指して、市民等の意見を踏まえて基本設計に反映することができた。 ●コロナ禍等の影響により、建設資材の物価上昇や調達が困難な状況が続いており、事業費の増加が見込まれている。また、新たな生活様式への対応など、刻々と変化する社会情勢に柔軟に対応していく必要がある。 |
| | 新図書館等複合施設整備事業 | | | R3予算額(千円) |
| 2 | (93567) | 1,4,5 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍の影響により「まなびの杜」は実施できなかったが、オンラインでの特別講座を開催するなど、新たな手法によって学びの機会を創出することができた。 ●SDGs未来都市として持続可能な社会の実現に向けて、SDGsへの理解や知識をさらに深めていくとともに、人生100年時代や多様化する働き方などの社会変化に対応した「学び直し」の機会を提供する必要がある。 |
| | 生涯学習推進事業 | | | R3予算額(千円) |
| 3 | (170070) | 7,8,10 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●統合型スポーツクラブでは、感染対策を講じた上で各種教室やジュニアスポーツクラブの活動を実施した。また、コロナ禍の影響により、大会やイベントが中止となったが、県と連携し、市民からスマートフォンアプリを活用したウォーキングの推進に取り組んだ。 ●コロナ禍においてもスポーツや運動の機会を提供し、市民のスポーツ活動や運動習慣の普及・定着を図る必要がある。 |
| | スポーツタウンづくり推進事業 | | | R3予算額(千円) |
| 4 | (170090) | 9,10 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍の影響により大会中止が相次ぎ、例年と比較すると激励金交付実績は減少したが、全国大会等に出場する選手に対して激励金を交付し支援することができた。2022年北京冬季オリンピックでは、富田姉妹が銅メダル獲得と5位入賞を果たし、その活躍を市民に周知することができた。 ●学校運動部活動が地域移行されることに伴い、統合型地域スポーツクラブの指導者について、指導者としての資質を満たした人材の育成を確保するとともに、競技スポーツ団体やジュニアスポーツクラブと連携した指導体制の構築を図る必要がある。 |
| | 競技スポーツ推進事業 | | | R3予算額(千円) |
| 5 | (170150) | 9,10 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍の影響により活動が制限されている中で、感染防止対策を徹底した活動を行った結果、全国中学校スキー大会に強化指定選手13人中10人が出場し、スキー競技力向上に寄与することができた。 ●少子化等によるスキー競技選手数の減少、スキー関係団体の高齢化による指導者不足が進行しており、引き続き、選手の発掘・育成・強化とともに、安定した指導体制を支援していく必要がある。 |
| | スキーのまち妙高推進事業 | | | R3予算額(千円) |
| 6 | (170212) | 10 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ●赤倉体育センターの耐震化の他、水夢ランドあらいのトイレ改修など、安全安心で快適なスポーツ活動を行える環境を整備した。 ●体育施設の老朽化が進んでおり、適切な維持管理をはじめ、計画的な修繕や改修等を行い、幅広い年齢層の運動習慣の定着とスポーツ施設の利用促進を図る必要がある。 |
| | スポーツ施設整備事業 | | | R3予算額(千円) |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍の影響により「まなびの杜」は実施できなかったが、オンラインでの特別講座を開催するなど、新たな手法によって学びの機会を創出することができた。 ●各種大会などが中止となったため、スポーツ施設等の利用者数は目標値を大幅に下回ったが、県と連携し、市民からスマートフォンアプリを活用したウォーキングの推進に取り組んだ。 ●競技スポーツにおいては、ジュニア育成団体への活動支援を継続し、ジュニア競技者の大会出場率は増加したことから、選手育成と競技力の向上が図られた。 ●インターネットやYouTubeなどの動画の普及により、図書館の貸出利用者は、減少傾向が続いており、子どもの読書離れが懸念される。 |


| 5 今後の方向性 | | |
|---|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 今後の方向性 |
| 庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | II | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍であってもオンライン講座など学べるしくみづくりに取り組むこと。SDGsへの理解や知識をさらに深めていくとともに、人生100年時代や多様化する働き方などの社会情勢の変化に対応するため「学び直し」の機会の提供すること。 ●学校部活動などの地域移行に向けでは、ジュニアスポーツクラブの指導者の確保や指導体制の確立に取り組み、競技力の向上と裾野の拡大を図ること。 ●安全安心で快適なスポーツ環境の整備を進めるため、財源確保を図りながら計画的な施設の改修等を実施すること。 ●ウイズコロナ、アフターコロナも見据えた中で、電子図書など先進的な技術を取り入れながら利便性向上を図っていくこと。 |
| 審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | II | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍であってもオンライン講座など学べるしくみづくりに取り組むこと。SDGsへの理解や知識をさらに深めていくとともに、人生100年時代や多様化する働き方などの社会情勢の変化に対応するため「学び直し」の機会の提供すること。 ●学校部活動などの地域移行に向けでは、ジュニアスポーツクラブの指導者の確保や指導体制の確立に取り組み、競技力の向上と裾野の拡大を図ること。 ●安全安心で快適なスポーツ環境の整備を進めるため、財源確保を図りながら計画的な施設の改修等を実施すること。 ●ウイズコロナ、アフターコロナも見据えた中で、電子図書など先進的な技術を取り入れるとともに、効果的な運用と活用方法について検討を行い、図書館の利便性向上を図っていくこと。 |

令和3年度施策評価(第3次総合計画)


| 1 施策の概要 | | | |
|----------|----------------|--------------------|--|
| まちづくりの大綱 | 5 | 郷土を築く人と文化を育むまちづくり | |
| 基本施策 | 4 | 郷土愛を育む文化のまちづくり【文化】 | |
| 関係課 | 生涯学習課 | | |
| 主要施策 | 1 歴史文化資源の保存と活用 | | |



4 質の高い教育をみんなに



11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナシップで目標を達成しよう

| | | | |
|-----------|-------|-----------|-------|
| R3予算額(千円) | 7,832 | R3決算額(千円) | 5,506 |
|-----------|-------|-----------|-------|

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

| 2 施策目標の達成状況 | | | | | | | | | |
|-------------|--------------------------------|----|-----------------|----------------|---|-------|--------|--------|--|
| 指標名 | | 単位 | 現況値 | 目標値 | 目標値の根拠 | 区分 | R2年度 | R3年度 | 目標達成率が70%未満の要因等 |
| 1 | 歴史・芸術文化拠点の来場者数 | 人 | 33,886 (H30) | 35,200 (R3) | 現況値から概ね10%増を目標とする | 実績値 | 24,623 | 22,292 | コロナ禍の影響により、施設の休館や事業が中止となり来場者数が減少したため。 |
| | 指標の説明 | | ↗ | | | 目標達成率 | 71.2% | 63.3% | |
| 2 | 歴史文化保存活用計画を策定し、地域活性化事業に取り組む地区数 | 地区 | — (H30) | 3 (R3) | R3年までに重点3地区の計画を策定し、R6年までに新たに1地区の計画を策定する | 実績値 | 2 | 2 | 計画策定後の地域活性化事業の取組にあたっては、地域が自ら実践する内容とする必要があり、協議に時間を要したため、計画策定には至らなかったもの。 |
| | 指標の説明 | | ↗ | | | 目標達成率 | 100.0% | 66.7% | |
| 3 | 指定・登録文化財数 | 件 | 85 (H30) | 87 (R3) | 毎年1物件増を目標とする | 実績値 | 88 | 88 | |
| | 指標の説明 | | ↗ | | | 目標達成率 | 102.3% | 101.1% | |
| 4 | 美術展覧会の出品数 | 点 | 272 (H30) | 285 (R3) | 現況値から概ね10%増を目標とする | 実績値 | 320 | 219 | |
| | 指標の説明 | | ↗ | | | 目標達成率 | 114.3% | 76.8% | |
| 5 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |
| 6 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |
| 7 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |
| 8 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |
| 9 | | | | | | 実績値 | | | |
| | 指標の説明 | | | | | 目標達成率 | — | — | |

| 3 施策を構成する主な事業 | | | | |
|---------------|--|---------------|---------------|---|
| No. | (事業通番) | 関連する 指標No. | R3年度事務事業の事後評価 | |
| | 事業名 | | 評価 | 評価理由 |
| 1 | (160355) | 1~3 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ● 関山地区における開園イベント等の開催により、旧関山宝蔵院庭園が地域のシンボルとなり地域活性化の起爆剤として期待される存在となった。関山地区と大字関川では、市の補助金を活用した地元住民による地域活性化事業が行われるとともに、妙高山信仰のPR動画等の新たな誘客コンテンツが生み出された。 ● 関山神社の秘仏等は、善光寺信仰と深く関わる優れた文化財であるため、認知度を大きく高め、さらなる交流人口の拡大に結びつける必要がある。歴史文化を活かした新たな観光圏を形成するために、個々の見学地におけるガイドのスキルアップとともに、一人で複数個所の見学地を通してガイドすることができる人材を養成する必要がある。 |
| | 妙高歴史遺産活用推進事業 (旧:関山神社周辺文化財総合調査・整備事業) | | | R3予算額(千円) 3,094 R3決算額(千円) 2,892 |
| 2 | (160336) | 1,4 | 維持 | <ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍の影響により「四季彩芸術展」は中止としたが、「市展」と「ジュニア芸術展」を、感染防止対策を徹底する中で開催することができた。コロナワクチン接種により、会場を新井総合コミュニティセンターから妙高高原メッセを変更し、会期もずらしての開催となったが、来場者からの評価は上々であった。 ● 「四季彩芸術展」は、次回で25回目の開催であり、妙高の秋の風物詩となっている展覧会であるが、近年、出品者・来場者とも、上越地域外からの参加者が減少し、初期の目的であった交流人口の拡大が達成できていない。 |
| | アートステージ妙高推進事業 | | | R3予算額(千円) 4,738 R3決算額(千円) 2,614 |
| 3 | | | | |
| | | | | R3予算額(千円) R3決算額(千円) |

| 4 施策評価 | | |
|--|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 評価理由 |
| A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった | C | <ul style="list-style-type: none"> ● 旧関山宝蔵院庭園が関山地区のシンボルとなり、市の補助金を活用した地元住民による地域活性化事業が行われるとともに、妙高山信仰のPR動画等の新たな誘客コンテンツが生み出された。 ● 市民の創作活動の発表の場である「市展」と「ジュニア芸術展」を感染防止対策を徹底する中で開催することができた。妙高高原メッセに会場を変更し、会期もずらしての開催となったが、来場者からの評価も上々であった。 |

| 5 今後の方向性 | | |
|---|------|---|
| 区分 | 選択区分 | 今後の方向性 |
| 庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | II | <ul style="list-style-type: none"> ● 妙高の特徴的な歴史文化資源の磨き上げと更なる魅力の掘り起こしを進め、地域の活性化に結びつけること。 ● アフターコロナを見据えた中で、新しい生活様式による芸術鑑賞機会や活動成果発表の場の提供に努めること。 ● 四季彩芸術展は、開催方法を検討すること。 |
| 審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了 | II | <ul style="list-style-type: none"> ● 妙高の特徴的な歴史文化資源の磨き上げと更なる魅力の掘り起こしを進め、地域の活性化に結びつけること。 ● アフターコロナを見据えた中で、新しい生活様式による芸術鑑賞機会や活動成果発表の場の提供に努めること。 ● 四季彩芸術展は、開催内容及び開催方法を検討すること。 |